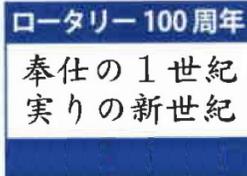
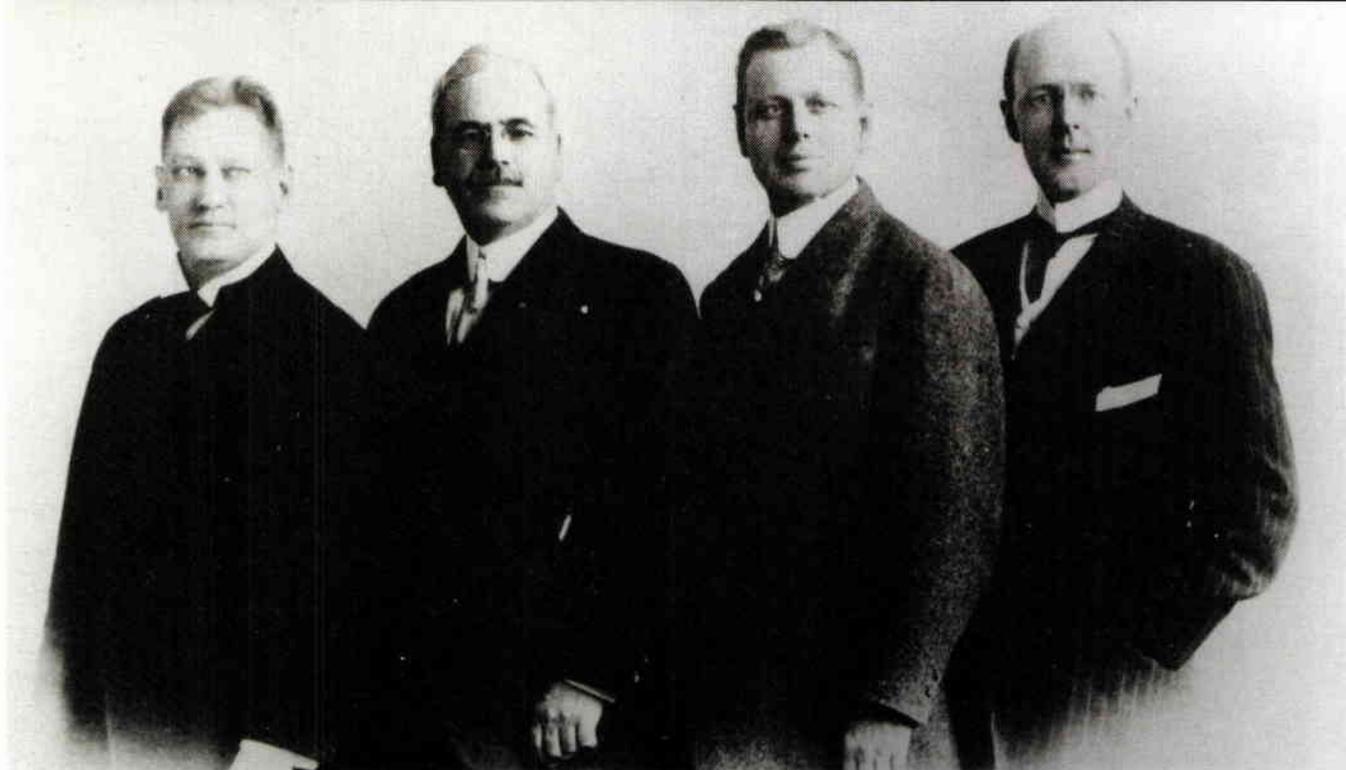


## 奉仕の1世紀、実りの新世紀 2004



1. **ロータリーの誕生** 120万人を擁する組織は、たった4人ではじまった
2. **ロータリーの定款と綱領のはじまり** 組織には目的があり、組織がうまれると規則がうまれる
3. **海外へ広がったロータリー** シカゴ生まれのロータリーが国際組織に
4. **ロータリー財団の始まり** 一人のロータリアンの夢が現実に
5. **決議23-34が生まれた時代** ロータリーが成年に達したとき
6. **国際ロータリーの試練** 第2次世界大戦とロータリー
7. **国際ロータリーに復帰したとき** 第2次世界大戦後の日本のロータリー、世界のロータリー
8. **ロータリー米山記念奨学会のはじまり** 日本のロータリアンが海外から留学生を支援
9. **日本から出た二人の国際ロータリー会長** ポール・ハリス、アーチ・クランプ  
……歴代 RI 会長とともに
10. **ポリオとの闘いの日々** 世界中の子供たちに幸せな明日を贈る
11. **ロータリーの新しい風** ロータリーに女性が入会……



# ロータリーの誕生

120万人を擁する組織は、たった4人で始まった

## ユニティ・ビル711号室であげた産声

それは、1905（明治38）年2月23日である。このころは、自動車がようやく実用化の段階に入ったばかりで、まだ馬車の方が幅を利かせており、飛行機もそれより約1年ばかり前、ライト兄弟によって発明されていたが、ほんの2～3分間空に浮かぶことができるという程度であった（日本でいえば、日露戦争の終わった年にあたる）。

この年の2月23日の晩、米国イリノイ州のシカゴで4人の人がデアボン街にあるユニティ・ビルの711号室に集まった。4人というのは、弁護士のポール P. ハリス、石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師のガスターバス E. ローア、洋服商のハイラム・ショーレーである。“ガス”ローアの事務所であるこの部屋は狭く、机が1つとあまり掛け心地のよくないすが4つ置かれているほか隅に洋服掛けがあり、壁には写真が1～2枚と工事関係の図表が掛かっている。当時のありふれた事務所であったようだ。4人は、ポール・ハリスが過去5年の間あためてきたアイデアについて語り合った。

簡単にいうと、お互いの事業あるいは職業上の結び付きを通じて、友好的交友関係を築くことができるはずであり、またそうすべきであるというのである。仕事の上での関係が、友情の妨げとなることはない、ポール

は考えたのである。

では、ポールが集めたこの4人はどんな人であったろうか。ポールは、その著『THIS ROTARIAN AGE（ロータリーの理想と友愛）』の中で、この点につき次のようなことを書いている。

「湖畔の一都市を舞台として、一場のドラマが始まった。このドラマがどんな意義をもつものであるか、何人も予測し得たものはいない。登場人物は、世の平凡な道を行く実業家および職業人であって、必ずしも一頭地を抜くほどの特質を備えた人ではなかった。しかし、一般的な意味で、“立派な人”と表現しても差し支えない人々であり、4人とも気が合っていて仲が良く、めいめい業種の異なる立派な事業あるいは職業を持っていた。彼らは、信仰、人種、政治的意見の相違に関係なく集まった人々なのである」

その晩、711号室で語り合った4人は、話が進むにつれ、職業を通じて結ばれた関係は、個人的な友情に発展させることができるし、またそうすべきであることを、お互いに一段と深く認識し合ったのである。そして、さらに話し合いを続けた結果、このような交友関係をはぐくむためには、何らかのクラブをつくるのが一番良いという結論に達したのであった。

ロータリークラブという名称は、このとき、その場で決められたわけではなかったが、実質的には、1905年



100年後のシカゴは、古いビルと新しいビルが美しいハーモニーを奏でます

2月23日の晩に開かれたこの会合が、世界最初のロータリークラブの第1回の会合となったのである。

この文章は、「国際ロータリー・広報提供」として『ロータリーの友』1969年2月号に掲載された「ロータリーの始まった日」というタイトルの記事の冒頭です。ポール・ハリスが若いころ、5年の予定で、放浪生活をしてきたことは、ご存じの方も多いと思います。予定の5年に、3か月を残していたころ、弁護士事務所を開くためにシカゴにやってきた、と『MY ROAD TO ROTARY (ロータリーへの私の道)』には書かれています。

### 大都会につくる信頼関係

彼が3人の仲間と会合を開くに至った道のりはどのようなものだったのでしょうか。同書には、

シカゴに戻ると、またいやな生活を送らなければなりませんでしたが、元気だけはおう盛でした。ウィークデーにはがっかりさせられるようなこともたくさん起こりましたが、それでもまあ、よかったです——というのは、仕事が忙しくて、自分自身のことなど考えている暇がなかったからです。これに反し、日曜や休日はもの悲しい日でした。日曜の朝は下町の教会へゆけばよかったです。長い日曜の午後はどうにもならないほど孤独でした。あの、私の故郷のニューイングランドの谷間の緑の原や、心優しい昔の友人たちを、どんなに恋こがれたことでしょうか。

と、その心境が書かれています。そして、

ある晩、私は同業の友人に連れられて、郊外の彼の家を訪れました。夕食後、近所を散歩していると、友人は、店の前を通るごとに、店の主人と名を呼んで挨拶するのです。これを見て私は、ニューイングランドの私の村を思い出しました。そのとき浮かんだ考えは、どうにかしてこの大きなシカゴで、さまざまな職業からひとりずつ、政治や宗教に関係なく、お互いの意見をひろく許しあえるような人を選び出して、ひとつの親睦関係をつくれぬものだろうか、ということでした。こういう親

睦関係ができれば、必ずお互いに助け合うことになるはずで

ずです。  
このときが、ロータリーの基礎となるインスピレーションを得たときなのでしょうか。しかし、彼はすぐにその考えを実行に移すことはしませんでした。その理由について、

何か月も、いや、何年も経ちました。大きな運動を生かすためには、信念をもった人が、しばらくひとりで歩くことが必要なのです。私はほんとうにひとりで歩きました。そして最後に、1905年2月、3人の若い実業家を呼んで会談し、私たちすべてが、自分の村で知っているような、お互いの協力と気取らない友情を深めるための簡単な計画を彼らの前に提示しました。彼らは私の計画に賛成してくれたのです。

ここで、冒頭の文章と日が重なります。誌面の都合で、『MY ROAD TO ROTARY (ロータリーへの私の道)』から拾って簡単に、ロータリー前夜の話を紹介しましたが、ポール・ハリスの、生まれ故郷ラシーンでの出来事から始まり、少年時代をすごしたウォーリングフォードでの生活、5年間の放浪生活、これらのすべてにわたる長い物語があるのだと思います。また、語られることはほとんどないのですが、最初に集まったほかの3人にも、そこに至るながい道のりがあったに違いありません。

## 20世紀初頭、シカゴ—ロータリーに適した都会

ロータリーのような運動が始まる時期としては、この20世紀の初めほどよい時期はあり得なかったでしょうし、それを育てる都会としては、男性的で、しかも積極的な、この矛盾に満ちたシカゴほど、適した町はほかになかったろうと思います。当時シカゴがなやまされていた悪は、アメリカの至るところに見られました。概していえば、ビジネスは毒されていたのです。消費者や従業員、あるいは競争相手といったものに関して、高い倫理的な基準にあうようなことは行われていなかったのです。自分たちの住む町を良くしようなどという精神は、ほとんどどこでも低調でした。すべてが良いほうに変わってゆくべきときでしたし、そういうときがこなければ

ばならなかったのです。

シカゴというアメリカの中西部第一の大都会から、そして人種的、政治的、経済的、宗教的な極端と極端とが出会い、衝突し、そして究極的には、何か均質なものができ上がりつつあった大きな社会の渦巻のなかから、ロータリーは姿を現わしたのです。現在でも、人種の<sup>る</sup>坩堝アメリカはシカゴでなおはげしく煮えたぎっています。愛国的な市民たちは、最後にはおいしい料理ができることを心から信じながら、質のよい材料をこの坩堝のなかに入れる努力を続けています。ロータリーは1905年、湖のほとりの町で上演されていた芝居の一場面だったのです。この場面の登場人物は普通の階層の人たち実業家と専門職業人でありました。同種の職業の他の人たちととくに区別されるような点はないかもしれませんが、この人たちは、よく使われる言葉で「社会の有益な分子」と名づけてよい人たちを、かなりよく代表していたといつてよいのではないのでしょうか。

ポール・ハリスは、ロータリーに至った背景をこのように表しこの章を結んでいます。これが、現在、世界に120万人を擁する国際ロータリーの、草々の物語です。

引用文献 『ロータリーの友』1969年2月号

『MY ROAD TO ROTARY (ロータリーへの私の道)』  
まとめ 『友』編集長 二神 典子

### ポール・ハリス語録

ロータリアンの活動が広がるよりむしろ狭まるとしたら、時代の傾向に沿っていると思います。川が狭まれば、その流れは深く、急になり、河道がはっきりするでしょう。現代は専門化の時代です。多分、ロータリーは、クラブという部門の専門化の模範であることが証明されるでしょう。

アメリカ・オハイオ州シンシナティで開かれた1916年R I国際大会でのメッセージ





# ロータリーの定款と綱領のはじまり

組織には目的があり、組織が生まれると規則ができる

先月号（横組みP 25～27）でご紹介したように、1905年2月23日、ポール・ハリスをはじめとする4人が会合をもったのが、ロータリーの始まりです。人が集まり、組織ができれば、当然のことながら、規則やその理念といったものが必要になってきます。

今日、使用しているクラブ定款・細則は、どのようにして定められていったのでしょうか。また、今日、ロータリアンがその拠り所としているロータリーの綱領はどのようにして生まれたのでしょうか。

『ロータリー日本五十年史』には、

最初の定款ができたのは1906年1月で、(1) 会員の職業上の利益の増進、(2) 親交と社交のクラブに普通付帯する望ましい事柄の増進、をその目的としていたが、その年のうちに、(3) シカゴ市の最善の利益を振興し、会員間に市民としての誇りと忠誠の精神を鼓舞することが加えられた。

とあります。

今月号では、5月に発刊した『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』の文章を借りて、ご紹介します。

## 定款と細則

初期のロータリーには細則も定款文書もなかった。1905年来のシカゴのロータリアン、チャールズ A. ニュートンが1927年にこのように書いている。「私たちは自分たちの規則を完全に理解した紳士協定を作成し

ようとした。会員は公開の会議で、口頭票で選ばれる。一票でも反対票があれば、入会できない。」

全国的な運営組織のなかった最初の16クラブは、一般に、シカゴ・クラブの定款と細則をそのまま採用していた。法による義務付けがあったためではなく、その方が手取り早かったためであった。全米連合会理事会の初回の会合から、役員らは全クラブを拘束する標準的な定款を定める必要性を認識していた。1911年にオレゴン州ポートランドで第2回目の大会が開催される頃には、この問題は緊急の課題となっていた。ロータリーは3カ国に36クラブを有する規模に拡大し、各クラブがそれぞれ独自の定款と細則を掲げていたのである。

シアトルのJ. E. ピンカム議決案委員会委員長は、ポートランド大会に集まった代表委員を前に、クラブがモデル定款と細則を採用することを議決案委員会は勧告すると報告した。この勧告を受けて、ポール・ハリス全米連合会会長はこれらの文書を作成する委員会を任命した。シアトルのアーネスト L. スキールを委員長とするこの委員会は、一年をかけてモデル定款・細則を草案した。スキールがこれを1912年のミネソタ州ドゥルースでの大会での発表すると、代表委員の圧倒的な支持を受けて採択された。その後数年、定款細則は改訂され、一部は書き直されたが、中心的なテーマは今日も変わらずロータリーを導く道しるべとなっている。

しかし、定款があるということは、必ずしもすべてのクラブがこれを使い始めたという訳ではない。ロータリアンは実業界の指導者であり、意志決定者であり、規

写真上：1911年、アメリカ・オレゴン州ポートランドで開催された第2回大会に集まってきた会員たち

則を課されるよりも、自分で設定するのに慣れていた。1915年、国際連合会は、加盟クラブに300の定款があり、したがって目標も300組あることを発見した。ロータリーが目指したのは200の異なる目標や原則に沿う200の異なる組織ではなく、1つの統一された運動になることであった。

ミネアポリスのアレン D. アルバート 1915-16年度国際ロータリー会長は、ロータリー・クラブ国際連合会の定款と細則を起草する委員会の委員長にアーチ・クランプを任命した。クランプは1915年サンフランシスコ大会で委員会の報告書を発表し、代表委員が全会一致でこれを採択した。それから1年のうちに、委員会はもう1組の書類を作成した。各ロータリークラブのモデル定款・細則となるものである。クラブの名称、綱領、会員資格と分類、区域限界、特定の政見支持の禁止など、重要な項目は標準化した。1916年シンシナティ大会の代表委員がモデル定款・細則を採択し、すべての新設クラブにこの採用を義務付けた。「既存のクラブは既得権が認められる（連合会に残ることが許可される）が、地元クラブの定款に今後変更を行う場合は、国際連合会理事会の書面による承諾を得なければならない。」とチェスリー・ペリーがThe Weekly Letter（週報）に書いている。

国際ロータリー・クラブ連合会の新しい定款で最も根本的な変更は、ロータリーを地区と呼ばれる10の地理

的単位に分けたことにあった。これによって、連合会の綱領を推進し、クラブを新設し、既存クラブの利益を増進し、それらを国際連合会理事会の一般的な監督の下で行うために、「地区ガバナー」という新しい肩書きが創出された。90年後の今日も、地区ガバナーは国際ロータリー理事会と地域のロータリアンとの間のリンクとして機能している。永い年月のうちに、ロータリーの定款は何度か改定されたが、文化的あるいは地理的变化に応じて行われた部分的修正を除き、改定は軽微なものであった。

### ロータリー要綱とロータリーの綱領

定款と細則は連合会とクラブが守る規則と手続を定めたが、「ロータリーとは何か？ ロータリアンは何を信じているのか？」という基本的な問いかけに答えるものではなかった。こういった中心的価値観は、もともと「ロータリーの宣言」と呼ばれたスピーチ、後に「ロータリーの綱領」に簡潔にまとめられている。

シアトル・ロータリー・クラブがその信条を定義する要綱を作成したのは、ほぼ発足の当日と言ってよい。同クラブのジェームス・ピンカム、アーネスト・スキル、ロイ・デニーの3名はクラブの方針声明書に手を加え、ポートランドで開催された1911年の第2回年次大会で「ロータリー要綱」案として発表した。5段階から成る声明文は、会員の職業分類制度、公明正大な商取引の

高層ビルが林立するシカゴの街並み





公約、奉仕がすべての仕事の基礎であるという考え方を提示した。要綱は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉で締めくくられていた。

ロータリー要綱が採択された1912年8月の同日、代表者たちは連合会の「綱領」も承認した。1906年に採択されたシカゴ・ロータリー・クラブの最初の定款には、次の2つの綱領があった：

1. 本クラブ会員の事業上の利益の増大
  2. 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思われる事項の推進
- クラブは年内に3つ目の綱領を付け加えた。
3. シカゴの最大の利益の推進、及び市民の誇りと忠誠とを市民の間に広めること。

1910年の全米ロータリー・クラブ連合会の第1回大会に出席した代表者たちは、新組織の5つの目標を設定した。

1. クラブの新設
2. 全クラブの共通の利益の推進
3. 市民としての誇りと忠誠心の奨励
4. 高潔なビジネス方法の推進
5. 個人会員の事業上の利益の増大

奉仕の理想への関心が高まるにつれて、ロータリアンは他者を援助する活動への関与を高めていった。1915年のサンフランシスコ大会で、代表者たちは第5の目的を拡充し、第6の目的を付け加えた。

5. 地域社会の公共の福祉に対するクラブ会員の関心を高め、かつ、市、社会、商工業の発展のために他の人々と協力すること
6. 同僚や社会一般のために奉仕したいという意欲を起すよう会員を鼓吹すること

1918年、国際連合会は再び改正を行い、綱領は4点にまとめられた。しかし、クラブとプロジェクトが急激に増大したため、この綱領は間もなく不適切となり、再び6点から成る綱領に改定された。その後、ロータリーは繰り返し、組織自体の定義を微調整し、1951年にその最も重大な最後の変更が行われた。ロータリーには「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」という実際ただ1つの綱領があると決定されたのがこの時であった。この崇高な目的を固く前面に

打ち出した後、ロータリアンが綱領を成就する4分野が次のように説明された。

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広めること；
- 第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること；
- 第3 ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

ロータリー100年の歴史の中で、時代やその背景の変化にともなって、定款や綱領の文言は変わってきました。そして、今後も変わっていくことでしょう。でも、そこには、決して変わることはない、100年間、脈々と受け継がれてきたロータリーの精神があります。

引用文献 『ロータリー日本五十年史』

『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』

まとめ 『友』編集長 二神 典子

### ポール・ハリス語録

少年時代に再び戻ることができるとしたら、そして物事を自分の気に入るように形づくることのできるとしたら、私がする最初のことは、私自身と周囲の大人との理解を深めることです。誰もが他の誰かを理解したとしたり、人々のあいだのトラブルはほとんどなくなるでしょう。少年たちを本当に援助するためには、できる限り少年の目をもつようにすべきです。

アメリカ・カリフォルニア州ハンティントン・パークで開かれた少年グループでのメッセージ





ロータリー 100 周年

奉仕の 1 世紀  
実りの新世紀

連載 第 3 回

## 海外へ広がったロータリー

シカゴ生まれのロータリーが国際組織に

### 大きな役割を果たしたチェスリー・ペリー

4 人の会合から始まったロータリークラブ (RC) は、徐々に会員の数を増やしていきました。ロータリーの創始者ポール・ハリスは、世界中にロータリーが広がっていくことを望んでいましたが、シカゴ RC の会員の多くは、その考えに賛同しませんでした。そこで、ポールは、自分自身で実践することによって、夢を実現しようと考えたのです。ロータリーは、シカゴからアメリカのほかの都市へ、そして国境を超えてほかの国へと広がり始めました。ポール・ハリスは著書『ロータリーへの私の道』で、ロータリー運動を拡大していくに当たって、初代事務総長となったチェスリー・ペリーが果たした役割について、以下のように書いてたえています。

この人がいなかったら、ロータリーに何ができたか。その人の出現はそれほど大きな意味をもっていたのです。チェスリー・R・ペリーは、シカゴ・クラブの活動に大いに熱意を傾けていたとはいえ、ロータリーの運動を拡大してゆくことに関心をもつようになるまでには、しばらく時間がかかりました。しかし、そうなったとき、

私は彼がほんとうにありがたいパートナーであることを知ったのです。

チェスが「世界じゅうにロータリーを」という考えに転向したについては、ちょっと変わったいきさつがありました。新しくシカゴ・クラブの会長になったものが、ロータリーを「世界に広げる」ことに賛成できなかったため、チェスをクラブの拡大委員会の委員長に任命しました。もちろんそれは、不合理で実現の見込みがないと考える拡大運動に賛成の人たちを、挫折させるためであったことはいまでもありません。

私としては、シカゴ・クラブから総スキャンを食うか、拡大委員会の新任委員長をもっと広い視野をもつように改宗させるか、どちらかをやらねばならないことになったわけです。

そこで、ある日曜日にチェスが暇なときを見計らって、電話をかけることになりました。ふたりの話しあいの中に、チェスは「ねえ、ポール、君が考えている理想に比べると、シカゴ・クラブなんてどうでもいいなどと、どうして考えるのかね」と聞きました。

私がそれにどう答えたか覚えていませんが、これは容易ならぬ事態だと察して、私の考えを守るためにいっせ

◀シカゴ・カムリーバンクの自宅で、チェスリー・ペリー(右)と  
ロータリーについて談笑する晩年のポール・ハリス

奉仕の1世紀 実りの新世紀



い射撃を始めました。チェスはそのときあまり多くを語りませんが、私にとってはそれで十分でした。受話機をおいたとき、味方ができた、もう大丈夫だと確信しました。そのすぐあと、彼と私は、他の人たちからも助けをもらいながら、現存のクラブの連合会をつくる計画にかかりました。チェスは、ロータリー・クラブ全体の第1回大会を計画し、組織するのに大忙しになりました。

シカゴのロータリアン仲間の何人かは、前から乗り気で助けてくれていました。彼らはアメリカ国内に関しては可能性があるとみていたのですが、世界的な運動となる可能性まで頭にえがくものは誰もいなかったのです。むしろシカゴ以外の都市につくられたクラブのほうが、より視野の広い哲学を発展させるのに熱心で、状況に対して新鮮な見方をしていたくらいです。

チェス・ペリーは、肝どころをすべてつかまえて、万事を公平に評価する力をもっているようにみえました。彼はロータリーを感情的にだけでなく、知的にも大切にしていました。私がひとりで戦う必要はもはやなくなりました。チェスがいつも私の傍らに、いや、いつも私の前にいてくれました。彼は闘志満々でした。

ポール・ハリスは同書に、「チェス・ペリーと私がいっしょにうまく仕事をしてゆくことができたことは、ロータリーにとって大きな天の恵みだったと思います。おそらくそれは、私たちがロータリーによって感化されたことによるものではないでしょうか。ある立派なことを全身全霊を打ち込んでやれば、必ずそのよさが自分自身に戻ってくるものなのです」と書いています。

これこそ、「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」ということなのではないでしょうか。このモットーの産みの親、アーサー・フレデリック・シェルドンと彼が親交があったことは言うまでもないことですから。

### シカゴから全米へ、そして世界へ

ロータリーはシカゴに近い街から少しずつアメリカ全土へと広がっていったわけではありません。2番目のクラブは広大なアメリカ大陸を一挙に横断して、西海岸のサンフランシスコにできたのです。なぜ、サンフランシ

スコだったのか、その答えは『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』に見つけることができます。

1908年6月、青年セールスマンのマニュエル・ムノズがシカゴからサンフランシスコに到着し、キャデラック・ホテルにチェックインした。次の日の夕方、ロビーでテーブルの前の椅子に腰掛けて、ムノズは翌日の予定を立てていた。2年前の大地震以来、再建がまだ続いているこの街に不慣れなため、テーブルを挟んだ向かい側の男性に、道案内を請うた。こうして、マニュエル・ムノズはその時同じホテルに住んでいたホーマー・ウッド弁護士に出会った。話し始めると、会話はどの通りがどこにあるという話題から大きく外れた。互いの職業、生まれ故郷、シカゴとサンフランシスコの違いなど、話はずんだ。それからマニュエルはポール・ハリスの要請を思い出して、ホーマーにロータリー・クラブについて語った。「ここに働き手があり、ロータリーの種を播く肥沃な大地があると思いついたのです」とムノズは述懐している。若い弁護士には、これが非常に興味深いアイデアに思われた。彼は社交家であり、取引と友人が増えるというメリットが魅力であるし、このロータリー・クラブは街のどのようなクラブとも違っていった。会合を終える際、ムノズはシカゴのポール・ハリスに手紙を書くように勧めた。

ホーマーの手紙がサンフランシスコから届くと、ポール・ハリスは天にも上る想いだった。サンフランシスコは、彼が若き放浪時代に、駆け出し記者として働いた街だった。次の街といえば、ニューヨークか、ボストンか、デトロイトか、はたまたジャクソンビルかと頭に描いていたが、サンフランシスコでも無論問題はない。彼は直ちに返事を書き、シカゴ・クラブの定款・細則を同封して送った。この書簡がシカゴから届くと、ホーマーはこれを持って親友のチェスター H. ウールシー博士を訪れ、このようなクラブのサンフランシスコにおける可能性をどう思うか意見を求めた。

こうして、サンフランシスコ R C は、1908年11月12日に創立の日を迎えたのでした。その後、アメリカ国内に徐々に広がっていったロータリーは、ついに国境



を超え、カナダ・マニトバ州ウィニペグRCが結成されるに至りました。この時の経過については、

1910年11月、全米ロータリー・クラブ連合会が結成され、その第1回目の年次大会が開催された3カ月後、シカゴのロータリアン、アーサー・フレデリック・シェルドンがチェス・ペリーに驚くべき発見を伝えた。シェルドンはちょうどカナダのマニトバ州ウィニペグから帰ってきたところで、そこでシカゴ滞在中にロータリーについて知っていたというマッキンタイヤー氏と会った。彼はシェルドンに自分もロータリアンであること、ウィニペグにできた30余名の新クラブの会員であることを伝えた。地元の実業家がロータリー・クラブを結成したが、米国の人間には誰も連絡していないという。

チェスリー・ペリーはただちにマッキン・タイヤーに手紙を書き、彼のクラブが全米連合会に加盟することの価値を説いた。クラブで検討に検討を重ねた後に、ウィニペグ・クラブは1912年2月に連合会加盟を申請し、3月1日に認証された。ウィニペグのロータリアンC. E. フレッチャーがミネソタ州デュルースで開催された1912年大会に出席した。彼が「全米ロータリー・クラブ連合会から国際ロータリー・クラブ連合会に名称を変更する動議を提出します」と発言すると、一瞬の沈黙の後、会場がどよめき、満場一致でこの動議が採択された。

と『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』に書かれています。こうして国際組織となったロータリーは、その後、大西洋を渡り、イングランド、アイルランド、北アイルランド、スコットランドへと広がっていきました。アジアで最初にロータリークラブができたのが、フィリピン・マニラで、1918 - 19年度のこと。日本に渡って東京RCが承認されたのが、1920 - 21年度のことです。この年度には、オーストラリア、ニュージーランド、メキシコ、フランス、スペインも新規加盟しています。現在では、166か国にまで広がりました。

ポール・ハリスがロータリーを創設するまでに5年間の放浪生活をしてきたことは、本誌8月号でご紹介しましたが、『ロータリーへの私の道』で、彼は、

ロータリーが、文明世界全体に定着していくのは間違いないと主張することはまったく愚かな考えだと、強く言い張った人びとも、結局は、旗を下ろさなければなりませんでした。しかしそれは、私が1910年にシカゴで開催されたロータリー・クラブ全体の第1回大会と、もう一つは、1911年にオレゴン州ポートランドで開かれた第2回大会で、予言したことでした。

ロータリーの運動を国際的な規模にもっていくに当たって、私自身の5年間にわたるロマンチックな放浪生活が大いに役立ちました。あの放浪がなかったら、ロンドン、パリ、ローマ、ベルリン、その他世界の都市にロータリー・クラブをつくるというビジョンをどうして私がつもつことができたでしょうか。他の人たちならともかく、私にはとてももてなかつたでしょう。

と、無駄ではなかつたと、述懐しています。

ロータリーは、友情を大切にしています。ロータリアン同士はもちろん、それぞれのロータリアンがそれぞれの職業を通して、また、それぞれの人生の中で築き上げてきた友情が、ロータリーの発展に寄与することを、創設者ポール・ハリスは身をもって、ロータリアンたちに教えてくれているのかもしれない。

引用文献 『ロータリーへの私の道』

『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』

### ポール・ハリス語録

ロータリーの会員になるということは、同時に、ロータリアンとして掲げる理想と規範を、自分の同業組合の中にもちこむという責任を負うことです。この点を見落としてはなりません。ロータリアンは、ロータリーの理想と規範を、同業者すべてに、理解させ、受け入れさせるよう努力しなければなりません。

『ロータリーへの私の道』





ロータリー 100周年

奉仕の1世紀  
実りの新世紀

連載 第4回

## ロータリー財団の始まり

一人のロータリアンの夢が現実に

### ロータリーの父

ロータリー財団の始まりといえば、アーチ C. クランフを思い出される方も多いでしょう。彼がどのような経歴の持ち主かご存じですか？『奉仕の1世紀 国際ロータリー物語』には、

その男、アーチ・クランフは驚くべき人物だった。1869年にペンシルベニア州カヌートビルの貧しい家庭に生まれ、まだ幼少の頃、両親と2人の兄はオハイオ州クリーブランドに移住した。家計の足しにするために、12歳で学校を辞めて仕事に就いた。16歳の時、クヤホガ材木会社の使い走りになった。自分の考えで夜間学校に入学し、1日の大変な仕事の後、電車賃を節約するために、片道4マイルの距離を歩いて学校に通った。

会社の経営が危なくなった時、クヤホガ材木会社はクランフをマネージャーに昇格した。彼は会社の経営を好転させ、米国中西部の材木業界で最も収益性の高い企業の1つにまで発展させた。独学の元使い走りの少年は

その後、同社を購入し、さらに銀行や汽船会社など、数々の企業の社長や副社長に就任した。

18歳のとき、クランフはフルートの演奏を独学で学んだ。3年後、フルートの名手となった彼はクリーブランド・シンフォニー・オーケストラのフルート演奏家となり、その後14年間シンフォニーで演奏を続けた。

1911年「材木―卸売ならびに小売」の職業分類でクリーブランド・ロータリー・クラブの創立会員となったクランフは、ロータリーでも事業や私生活におけるのと同じ素晴らしい業績の道をたどった。1912年にはクラブ会長になり、1916-17年度国際ロータリー・クラブ連合会会長になった。

と、彼の生い立ちについて書かれています。

### 始まりは2ドル50セント

1917年、アーチ・クランフはアメリカ・ジョージア州アトランタで開催された国際大会で、「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で、慈善、教育、その他、

写真上 アーチ・クランフがロータリーの基金について語った、1917年のアトランタ国際大会に出席した人々



じたに違いない。彼は人気も高く、尊敬された指導者であり、ロータリー基金が新しいロータリー・クラブの設立や人道的救援の役に立つという彼の提案は好意的に受けとめられていた。しかし、6年経っても基金の残高はやっと米貨700ドルに達したに過ぎなかった。

と、前出の『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』に著されています。

生みの苦しみを味わっていたこの基金も、基金総額が5,739ドル7セントに達した1928年のミネアポリス国際大会で、この基金による事業開始の時がきたとして、基金の名称をロータリー財団と改め、国際ロータリー定款・細則も改定されました。

社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないかと提案しましたが、その背景には、彼の生い立ちが影響していたのかもしれません。

彼の提案は、同大会で採択されました。ロータリー基金(ロータリー財団の前身)への最初の寄付は、1917年、ミズーリ州カンザスシティロータリークラブからの、26ドル50セントでした。今日のレートで計算すると、3,000円と少しというところですが、今から約90年前のことです。現在の物価に換算するとどのくらいの金額になるのでしょうか。アメリカと日本の違いもあり、単純に換算することは難しいのですが、私たちが単純に考えているよりは、はるかに多い金額だったのかもしれません。

## 初めはゆっくりと

さて、今日、世界中で大きな貢献をし、重要な役割を果たしているロータリー財団が、はじめから<sup>じゅんぷうまんぱん</sup>順風満帆であったかという、決してそうではなかったようです。

続く数年間、クランフは一人芝居をしているように感

この変更で、すべて元R I会長で構成される管理委員会が新しい財団を運営し、資金は国際ロータリーと別に管理することが規定されました。ロータリアンの善意で集まったお金が最初に使われたのは、その少し後のことです。前出の本によれば、

1929年の株価暴落後、さまざまな慈善活動に対する寄付金が枯渇するようになった。ポール・ハリスが、ロータリー財団に最初の拠出を要請したのはその時であった。財団は、オハイオ州エリリアのロータリアン、エドガー F.「ダディー」アレンの発案で1919年に活動を開始した International Society for Crippled Children (国際障害児協会)のために500ドルの小切手を送った。

とあります。

## ロータリーの創始者の偉業に敬意を表す

ロータリー財団の発展の礎となったのは、ロータリーの創始者ポール・ハリスの偉大な業績に敬意を表し、その死を悼むロータリアンたちの思いでした。『ロータリ

写真上 1916-17年度国際ロータリー・クラブ連合会理事会メンバー：アーチ・クランフ(アメリカ・クリーブランドRC)、アレンD.アルバート(ミネアポリスRC)、F.W.ガルブレイス(アメリカ・シンシナティRC)、E.レズリー・ピジョン(カナダ・ウィニペグRC)、チェス・ベリー(アメリカ・シカゴRC)、ガイ・ガンデーカー(アメリカ・フィラデルフィアRC) — 『The Rotarian』1966年11月号掲載

アン必携』(1995年)の『ロータリー財団』には、

1947年1月27日に、ポール・ハリスがイリノイ州シカゴの自宅で亡くなりました。70か国以上30万人以上のロータリアンがロータリーの創始者の死を悼みました。しかし、ポール・ハリスの死は、財団の転換点になりました。(中略)

ポールの逝去で、寄付が国際ロータリーに相次いで寄せられるようになりました。財団はポール・ハリス記念基金を設け、ポールに敬意を表したいロータリアンに対して、財団強化のために寄付するよう要請しました。その反響は素晴らしいものでした。翌年の7月までに、米貨130万ドル以上が寄付され、永年の目標である200万ドルの寄付が射程距離に入ってきました。

1947年には最初の財団プログラムが実現されました。それは、高等研究奨学金と呼ばれるもので、1年目は、米国、ベルギー、英国、フランス、メキシコ、中国の18人の若い人たちが選ばれ、他国でそれぞれの専門分野を勉強しました。当時は、この人たちはポール・ハリス・フェローと呼ばれていましたが、最初の国際親善奨学生でした。

とあります。その後、教育プログラムに、人道的プログラムに、このロータリー財団は貢献しています。

### 花が開き実を結んだ

このシリーズの引用に度々登場する『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』には、「希望の財団」として、ロータリー財団に1章を取っています。そして、その結びには、次のように書かれています。

ロータリー財団が、これほど効果的なのは、資金と人を組み合わせるからである。アーチ・クランプはこのように述べている。

「金だけでは、大したことはできない。

個人の奉仕は、金がなければ無力である。

この2つが組み合わせれば、文明への天の恵みとなることができる。」

ポール・ハリスは1934年にクランプに出した手紙に

こう書いている。「私たちは、あなたがこの運動に何年も注いできた努力以外に、おそらくこれといった努力をすることなく、いつか、突然、自分たちが何か非常に重要なものになっているのに気づくような気がする。」

ロータリー財団への支援が世界的ではなかったときに書かれたこの言葉は、先見的であった。クランプは1951年に亡くなったが、彼が大事にしたロータリー財団はすでに確かな現実になり始めていた。しかし、自分のビジョンについて最も楽観的だった日のアーチ・クランプ自身でさえ、「小さなひらめき」と彼が呼んだアイディアがこれほどの力を持つと想像したであろうか？

ロータリー財団は、多くのロータリアンによって、大きく花開くことになりました。特に、日本のロータリアンの果たす役割は、ロータリー財団の大きな支えになっています。ロータリー財団に寄付をするとき、ロータリー財団の資金を使ってさまざまな奉仕活動をするとき、アーチ・クランプの「小さなひらめき」が、その第一歩であったことを思い出してください。

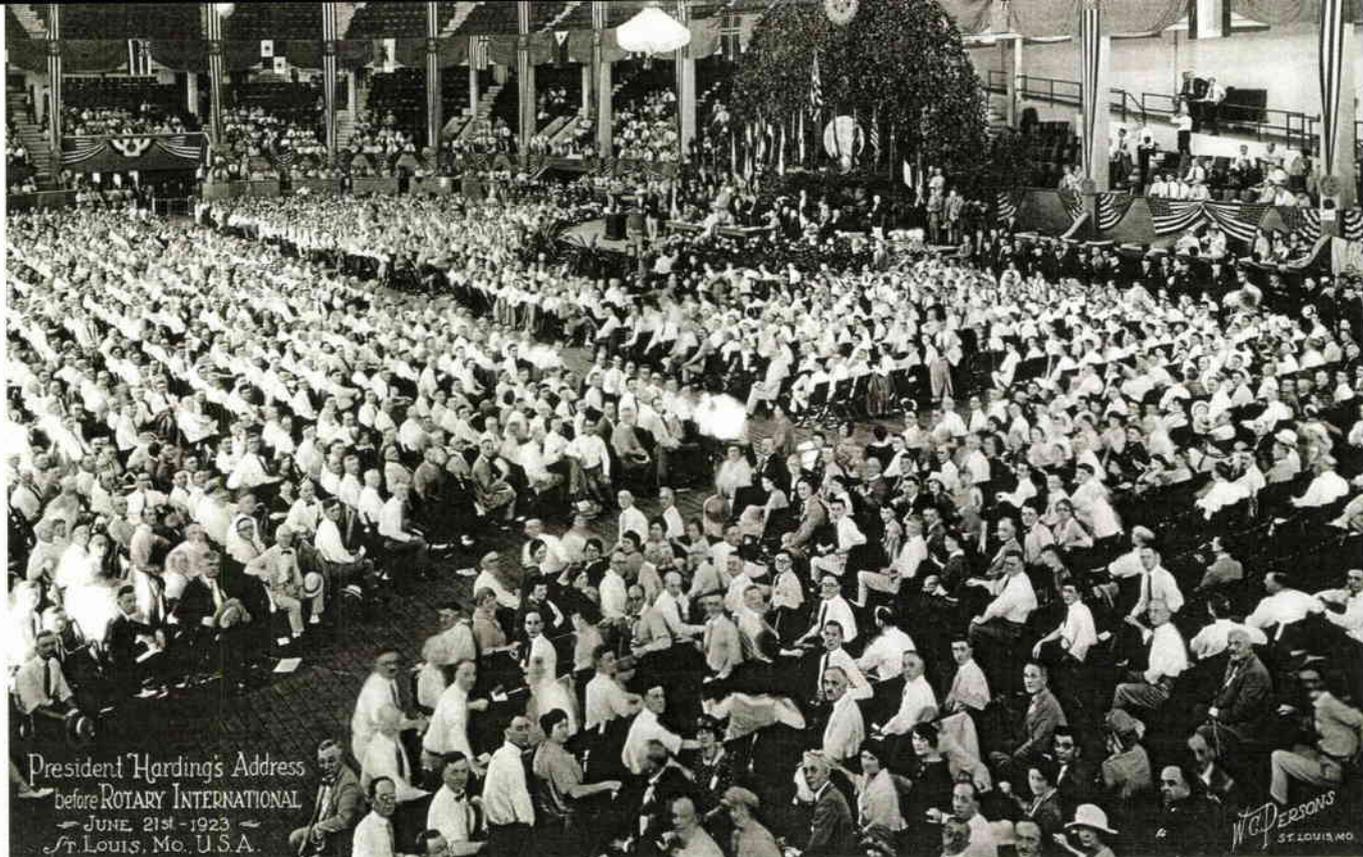
引用文献 『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』  
『ロータリアン必携』(1995年)

### ポール・ハリス語録

私は、ロータリーの草創期が始まったばかり、と考えると思います。今までと同じくらい、しなければならないことが沢山あります。万華鏡のような変化が起きています。その多くは、私たちの意思とはかかわりなく起きています。急速に変化する世界のふちにぶらさがっているのが、私たちにできる精一杯なのです。ロータリーはバイオニアとなり続けなければなりません。さもなければ、進歩に取り残されるでしょう。

『ロータリーの私の道』





ロータリー 100周年

奉仕の1世紀  
実りの新世紀

連載 第5回

## 決議 23 - 34 が生まれた時代

ロータリーが成年に達したとき

### セントルイス国際大会で

かつて決議 23 - 34 という言葉をよく耳にし、目にしました。『ロータリーの友』でも、決議 23 - 34 について書かれた記事がたくさんあります。あるとき、決議 23 - 34 という言葉を載せたら、「それは何のことですか」という問い合わせがありました。そのころから、決議 23 - 34 と聞いても何のことかわからないという方が、徐々に増えてきたように思います。今これをご覧になっている方の中にも、わからないという方は多いかもしれません。

決議 23 - 34 は、社会奉仕活動に対する方針 (Policy Toward Community Service Activities) のうち、「社会奉仕活動に関する 1923 年の声明 (1923 Statement on Community Service)」として『手続要覧』に掲載されています。一般的に決議 23 - 34 といわれているのは、これが、1923 年に開催されたセントルイス国際大会に提出された第 34 議案であったからです。

この文章は長くてすべてをここに掲載することはできませんが、ハロルド T. トーマスは、その著『ロータリー・モザイク』で、

この決議の中に盛り込まれている方針とプログラムの適用について推奨されている技法の若干を要約すれば次の通りである。

実行の必要に迫られている仕事は何か？ 地域社会の公共施設の中にその仕事を手がけることのできる施設があるか？ もしあれば、それに協力し、それに力を貸せ。重複してやってはならない。また、もしそのような施設がなかったら、まず適切な企画をもって仕事をやり始めよ。やがてそれは独自の施設出現の口火となるであろう。

と、述べています。また、その意義については、

決議二三三四が書きおろされて以来、既に五十年間にわたって、全世界における実際上の経験に基づく討議・討論が行なわれた。しかしながら、原理という観点から

するロータリーの説明として、この決議の第一パラグラフをより良く書き改めることは、恐らくわれわれの中誰一人としてこれをよくする者はあるまいと思う。

と書いています。この決議が出てきた背景について、ロータリーの創始者ポール・ハリスは、その著『ロータリーの理想と友愛』の中で次のように述べています。

そのようにして月日の推移とともに漸く台頭してきたものは、ロータリー内部における思想の対立であった。ロータリーへの適応性において、最も重要で最も優秀な機能の一つと考えられた職業奉仕 (Vocational Service) の支持者は、社会奉仕 (Community Service) が多くのクラブ、殊に比較的小さな土地におけるクラブの会員を容易に独占したという事実を、ある種の羨望をもって眺めるようになった。

『ロータリー日本五十年史』によると、

ロータリーはその成立以来一貫して職業に関する徳義の向上をうたってきたのであったが、1913年ミード会長がロサンゼルスクラブの例をあげて社会奉仕を奨励し、またエドカー・アレン Edgar F. Allen の提唱した身体不自由児の施療訓育運動がアメリカ各州に及んでついにそれが国際身体不自由児童協会 International Society for the Welfare of Crippled Children に発展してロータリーの看板事業になってくると各クラブは社会奉仕を競い、行き過ぎて慈善クラブと変わらぬものもできてきた。

そこでロータリーの1業種1人制は職業を通じての奉仕によってのみ意義あるものとする者はこの際、社会奉仕の項を綱領から削除すべしと極論するようになった。

しかしロータリーの理想の実現にはまず社会において認められることが先決で、それには社会奉仕を実行する必要があるという現実論も有力で、それがまた期せずして大都市のクラブと中小都市のクラブとの対立ともなってあらわれてきた。

さらに社会奉仕の主体をクラブにおくか会員個々の活動にまかすかについて論争され、やがてこれらの対立が

ロータリーの分裂の危機をはらむに至り、ついに1923年セントルイス国際大会で34号決議ができたのである。

と記されています。前出の『ロータリー・モザイク』によれば、

ロータリーの歴史を立体的に考察してみると、一九二三年にかの有名な決議二三三四を採択した時にロータリーは成年に達したといえそうである。

この年セントルイスの大会で、時の米国大統領ハーディングはこう言った。

「仮に私の力で世界中のあらゆる津々浦々にロータリーを広めることができるとしたら、私は躊躇なくそうするであろう。」

決議二三三四はあらゆる意味において、すばらしい労作であった。この決議の中には“一体なぜロータリーを必要とするのか？ そして、ロータリーの基本方針とプログラムはなぜかく定められているのか？”という疑問に対する回答が含まれている。ここでも、必要はその求むる人を生んだのであった。

一九三六―三七年度の国際ロータリー会長になる運命を背負っていたウィル・R・メーニアー・ジュニアがセントルイス大会の決議委員長であった。私はこの大会に参加したロータリアン達が言うのを聞いたことがある。「大会においてこの決議に関連する諸問題についての討議が行われている間も、ウィル・メーニアーは昼夜を分かたず決議二三三四と取り組んでこれを書き上げたのだった」と。

## 1923年、そのとき日本では

さて、読者の皆さまは、1923年という年に何か聞き覚えはないでしょうか。ご年配の方には、大正12年といった方がわかりやすいかもしれません。この年、日本では関東大震災が起きました。

『東京ロータリークラブ50年の歩み』によれば、

こんな状態で、氣息奄々として生きのびて来た東京ロータリークラブに、一喝、活をいれたのは、幸か不幸か、



あの関東大震災であった。1923年9月のことである。

東京全滅の報は、ただちに電波によって世界中に伝えられた。救援の手は各国から差しのべられた。東京ロータリークラブを名指して寄せられたそれらの救恤は、大阪R.C.経由で、送られてきた。R.I.からの¥74,216.16を筆頭に、17ヶ国、503ロータリークラブにのぼり、その合計は、¥89,161.12に達した。今日の貨幣価値に換算すれば幾らになるか、恐らく、3億円近いものになるであろうが、それは、今日の3億円とは比較にならない巨額なものとして、当時の会員の眼に映じたことは間違いない。

と、R.I.ならびに世界中のロータリークラブから寄せられた支援がいかに大きなものであったかが、記されています。前出の『ロータリー・モザイク』でハロルド T. トーマスは、

ロータリーが一九二三年に成人に達した分野がほかにもう一つある。国際大会が国際協調を呼びかけてから三カ月も経たないうちに日本の東京と横浜の両市が地震と火災のため荒廃に帰した。次に示すのは公式記録の抜粋からである。

「日本の大震災（九月一日）がもたらした火災が鎮火するかしないうちに、数千ドルに上る義捐金が全世界各地のクラブから東京ロータリークラブに流れ込み始めた—そして、特別救済資金を調達した国際ロータリーからも。東京ロータリーは良識をもってこれらの義捐金を分配した。入院患者達のために市内の各病院に、東京と横浜の小・中学校に、東京孤児院の構内に家を失った孤児のための二階建の“ロータリー・ホーム”を建設するために。」

ロータリーの酵母は地域社会の中で、国家の中で、そして全世界の国家群の中で、作用していたのである。

世界各国のロータリーから寄せられた義援金は、生まれて間もない、まだロータリーがどのようなものなのかよくわかっていなかった東京ロータリークラブの会員の意識を大きく変えたと伝えられています。現在の日本のロータリアンたちが一生懸命に奉仕活動をするのも、そ

のときの恩返しの意味が込められているのだといわれる方もいらっしゃる。

ロータリー 100 年の節目に当たり、その後の国際ロータリーを、そして日本のロータリーの一つの節目であった、1923年という時代を思い起こしながら、自宅で、または例会の折、決議 23 - 34 「社会奉仕に関する 1923 年の声明」を読んでみませんか。80 年前のロータリアンたちの思いの中に、奉仕の第 2 世紀へのメッセージを、見つけることができるでしょう。

注：決議 23 - 34 「社会奉仕活動に関する 1923 年の声明 (1923 Statement on Community Service)」は、『手続要覧 2001 年』77 ~ 79 ページに掲載されています。

また、ロータリーの友ホームページ [www.rotary-no-tomo.jp](http://www.rotary-no-tomo.jp) の「ロータリーの基礎知識」ならびに「ロータリー関連資料」に、日本語と英文の両方を掲載しています。

#### 引用文献

ハロルド T. トーマス、松本兼二郎訳『ロータリー・モザイク』1977 年（トーマスの英文原本刊行は 1974 年）  
 ポール・ハリス、米山梅吉訳『ロータリーの理想と友愛』1978 年（ハリスの英文原本刊行は 1935 年）  
 ロータリー日本 50 年史編集委員会『ロータリー日本五十年史』1971 年  
 東京ロータリークラブ創立 50 周年記念編集委員会『東京ロータリークラブ 50 年のあゆみ』1970 年

#### ポール・ハリス語録

優れた人生哲学はお金に勝り、順境の時でも逆境の時でもよく役に立ちます。不思議なことに、世界不況の時に自殺した人たちは、都会の貧乏人ではなくて、むしろ暮らし向きのよい金持ちが多かったのです。つまり金持ちの多くは、自主的に生きていく哲学に欠けていたのです。

『ロータリーの私の道』





ロータリー 100周年

奉仕の1世紀  
実りの新世紀

連載 第6回

## 国際ロータリーの試練

### 第2次世界大戦とロータリー

1905年、ポール・ハリスと友人が集まって4人で始まったロータリーが、100年を経て、今では全世界に120万人を擁する組織になりました。でもこの間、いつもじゅんぷうまんぱん順風満帆であったわけではありません。数々の試練を乗り越えてきたのです。

『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』には、

どの河も荒れることがある。ロータリーの一世紀の歴史にも、乱流が起った。中でもロータリー運動を容易に破壊しかねない大惨事が三つがあった。第1次世界大戦と大恐慌と第2次世界大戦である。

と書かれています。今回は、これらの乱流の一つ、日本のロータリーにも大きな影を落とした第2次世界大戦中のロータリーについて触れることにします。

前出の『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』では、

1936年、内戦が勃発したスペインはロータリーを禁じ、国内の36のクラブを閉鎖していた。今やドイツの

42クラブ（ダンチヒ自由都市のクラブを含む）が解散され、それから1年のうちに、ドイツとの絆を強めたオーストリアとイタリアの両国でもクラブが解散に追い込まれた。一方、世界の反対側からも悪いニュースが届いた。日本が中国に侵攻し、6都市のロータリー・クラブが強制的に閉鎖された。戦争が勃発し、国々が侵略軍の支配下に入り、484クラブと16,700人のロータリアンがロータリー名簿から抹消された。地元クラブの会員記録がゲシュタポに見つかる、多くのロータリアンが地域社会の有力者として、高い代価を支払った—ドイツがポーランドのワルシャワを占領した時には、ワルシャワ・クラブの会員12名が処刑された。泣く子も黙る日本の憲兵隊もロータリーとロータリアンを不穏分子リストに上げたが、同国のほとんどのロータリー・クラブは政府により強制的に閉鎖された後も、例会の開かれた曜日にちなんだ名称（たとえば火曜日クラブ）で会合を続けた。

多くの被占領国で、ロータリアンは人目を忍んで会合を開き続けた。39クラブが存在するボヘミアとモラビ

写真上 1940年5月、横浜で開かれた第1回日満ロータリー連合大会会場風景

ア（ズデーテン地方）をドイツが占領した後、同地のロータリアンが互いの自宅で会合していることをゲシュタポが発見するのではないかという懸念がレスリー・ストラサーズからチェス・ペリーに伝えられた。ゲシュタポがフランチシェク・クラール地区ガバナーの自宅に押し入り、ガバナーに銃口を向けて「ロータリーに関連するすべてのもの」を差し出すよう命じた。ちょうど前日にそういう強制捜査があるかもしれないと考えたクラールが犯罪の証拠となりそうなものをすべて焼却していたとストラサーズは説明している。

ウィーンでは、解散されたロータリー・クラブの会員数名が毎週火曜日にロータリアンとしてではなく「ゴルフファー」として会合を続けていた。解散したドイツのキール・ロータリー・クラブのバーナード・ゴールドシュミットが、信頼できる元ロータリアンと共にフライタグズゲゼルシャフト（Freitagsgesellschaft = 金曜日企業）と呼ばれる地下クラブを結成した。

と振り返っています。そのころの日本は、どのような状況だったのでしょうか。第2680地区（兵庫県）の深川純一パストガバナーは、1999年に開催された第2830地区大会の記念講演で、

日本のロータリーは昭和初期、軍閥の弾圧を受けました。ロータリークラブというのはアメリカに本部があり、「アメリカのスパイの手先だ」と、軍閥があらゆる弾圧を加えました。昭和八年、京都RCに右翼の壮士の一団が押しかけました。時の会長は、京都電灯の社長でありました石川芳次郎氏。石川会長は、「ロータリークラブというのは世界的な組織であって、私たちは皆、良質な職業人です」職業を通じて世のため人のために働いているので、決して国の利益に反することではありません」と言ったのですが、納得してもらえず「証を立てろ」と迫られました。

そこで石川会長は、証を立てるために二つの条件を提案しました。それが、例会で「君が代」を斉唱することと、例会場に「日の丸」を掲揚することでした。その後、ロータリークラブの例会では「日の丸」を掲げ、「君が代」を歌う慣例ができました。これは、私たちの先輩が軍閥

の弾圧を逃れるために、血のにじむような思いで開発した慣例であります。したがって、皆さんは、例会でただ何となく「日の丸」を掲揚し、「君が代」を歌うのではなく、そのことを心にとめておいていただきたいと思います。

と、紹介しています。また、『東京ロータリークラブ50年のあゆみ』には、

1936年、所謂2:26事件が起きた。そして、その翌年の7月に、日華事変が勃発した。それは、止ることなく、ついに1941年12月太平洋戦争へとつながっていった。

こうした情勢の下であって、ロータリーはどうあるべきかの議論は、内外から起きた。ロータリアンは祖国に忠誠であるべしとする、ロータリーの本義は、到底、一般の理解を得られるものではなかった。国際団体であるという理由だけで、ロータリーは、反戦的であり、亡国的であると断じる一般の誤解は、重圧となって、ひしひしとロータリアンに襲いかかって来た。

そこで、対策として、日満だけのロータリー組織を新設してR.I.から独立した形をつくり、国際的なつながりを制限した組織形態によって、一般の誤解を和らげ、他面、国内の一般情勢の影響から逃がられずに動揺する会員の気持ちを、日満独自の運営という提案によって收拾し、内部結束を保持しようとしたのであった。

それは、1939年の別府に於ける地区大会の決議となった。既に活動を開始していた日満連合委員会は、幹事の芝染太郎を、急遽同年のクリーブランド国際大会に派遣し、日満ロータリー組織の設置を決議するよう要請した。しかし、情勢は極めて不利で、その決議案は撤回されたが、日満連合委員会は、後日、R.I.理事会の配慮によって承認された。

しかし、これらのすべては徒勞に終わった。ロータリーに関する世間の誤解は、ロータリーに対する攻撃に転じ、スパイ呼ばわりさえされる始末となった。新聞紙上でも、ロータリー解散すべしと論断された。

1940年8月14日の例会に於て、遂にクラブ解散の問題がとり上げられ、賛否両論が沸騰した。他のロータ

リークラブでも、同様に議論は対立し、その内容が、新聞記事となる不手際も出た。

日満連合委員会では、国家単位に、ロータリーを改組することを提案し、もし、それが、R.I.に容れなければ、国際ロータリーから脱退する方針を定め、各クラブに通告した。しかし、時の動きは余りにも速く、世情の重圧は、既に、支え切れなところまで来ていた。

9月11日、東京ロータリークラブは遂に解散した。創立者、米山梅吉は、重い足を引きずるようにして壇上に立った。そして、奉仕の理想はあくまで堅持したいと、20年にわたったロータリー歴の最後の言葉を残したのであった。かくて、午後1時45分、会長中山龍次は、解散を告げる閉会の鐘を鳴らしたのであった。

と、その当時の東京ロータリークラブ(RC)日本のロータリアンの苦悩が書かれています。神戸RCの直木太郎氏によれば、

神戸クラブはこの日満連合会に出席していた岡崎忠雄からの入電によりこの決定を知り翌九月五日の木曜日の例会において解散すると共に直ちに神戸木曜会をそのままの形で組織した。

小泉会長はその豪快な性格とユーモラスな態度とによって各方面の当局ともよく接触を保ちダンネル(独)、デルブルゴ(伊)の外人会員の自発的退会によってうまく妥協し円滑に神戸クラブは推移していたのであったが、京都クラブが遂に二つに割れて解散し、大阪クラブもまた解散したと言うのでひたすら日満連合会の決定を待っていたのであった。

日満連合会に代る新団体の結成について神戸を代表して岡崎忠雄が発起人に指名されていたが、やがてその標準定款もでき、名称も「七曜倶楽部連合会」が良かろうと言うことになっていたが、日米開戦を目前にひかえ各地のクラブはそれどころでは無く結局この七曜倶楽部連合会は文字通りの有名無実となってしまった。

と、東京RCばかりでなく、他のクラブも同じような状況であったことがわかります。日本のすべてのクラブが国際ロータリー(RI)を脱退しましたが、日本からロー

タリーの灯が消えてしまったのかといえば、決してそんなことはなかったのです。

『ロータリー日本五十年史』によれば、名称を変えて新クラブを発足したクラブは29あったようですが、その名称の多くが例会の曜日にちなんだものでした。そのほか、名古屋同心会、札幌職能奉仕会、横浜同人会のような名称も見られます。

このような試練の時期を乗り越えて、戦後、日本のロータリークラブは次々にRI復帰を果たします。その辺りの話は来月号までお待ちください。

今、長引く不況や社会状況の変化によって、会員数は減少をし続け、ある意味で試練の時を迎えているといってもいいのかもしれませんが。この試練を乗り越えるために、戦時中のロータリアンたちに思いを馳せてみてください。

注：日中戦争のことです。当時、日本側からはこの戦争のことを「日華事変」と呼称していました。

#### 引用文献

- 直木太郎『われらのつどい』1964年  
 東京ロータリークラブ創立50周年記念編集委員会『東京ロータリークラブ50年のあゆみ』1970年  
 ロータリー日本50年史編集委員会『ロータリー日本五十年史』1971年  
 深川純一「ロータリー運動の核心」『ロータリーの友』2000年1月号

#### ポール・ハリス語録

人間の違いも国の違いも、基本的には大差がないのです。何もかもよい人も国もないし、何もかも悪い人も国もありません。不和は誤解から生まれます。



『THE ROTARIAN』1944年7月号



ロータリー 100 周年

奉仕の 1 世紀  
実りの新世紀

連載 第 7 回

## 国際ロータリーに復帰したとき

### 第 2 次世界大戦後の日本のロータリー、世界のロータリー

#### 終戦後の援助を検討

第 2 次世界大戦中、各国のロータリーは次々と国際ロータリーを脱退していきました。しかし、それらの国でロータリーの灯が消えたかといえば、決してそのようなことはありませんでした。各国のロータリアンたちは、脱退後もロータリーの精神をもち続けていたのです。

今ほど通信事情がよい時代ではありませんでした。また、戦争が互いの連絡を不自由にしていたに違いありません。でも、脱退せざるを得なかった国々のロータリアンたちが、名称や形を変えながらも例会をもち続け、ロータリーの精神を忘れていないことは、創始者ポール・ハリスの耳にも入っていたことでしょう。

そして、友人同士が敵味方に分かれて戦わなければならない戦争を愁い、以前のように多くの国々のロータリアンたちが帰ってくる日を、心待ちにしていたのだと思います。『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』には、

1940 年代に入ると、ロータリー幹部の多くは終戦後

にロータリーができる援助について検討し始めていた。ロータリーが国際奉仕を綱領に加えてから 20 年が経過した今、国際奉仕が切に求められていた。ロータリーは今や「アメリカの組織」とはみなされなくなっていた。明らかに世界に会員基盤を有し、多様な国々の代表が指導者の地位に就いていた。「ロータリーには戦車も、軍隊もなく、人々に終戦を強制する手段はない。しかし、戦争が終われば（そして戦争は必ず終わる）、その時こそロータリーは輝くことができる。」とイングラッド、ウィンザーのウィリアム C. カーター 1973 - 74 年度 R I 会長が数年後に述べている。

銃声が止む頃にはポール・ハリスは高齢になっていた。彼は自分の構想が世界中に広がるのを見た。1945 年の時点でロータリー・クラブ数は 5,441、会員数は 247,212 人であった。親睦、寛容、倫理をたゆまず唱道してきたポールは、こういう基本的な人間の礼節が、戦争と、残酷な流血と、憎悪に満ちた宣伝工作によって、ずたずたに引き裂かれるのを見て嘆いた。しかし、78 歳の生涯の終わりに近づいた 1947 年に、ポールは喜び

写真左 1949 年 4 月 東京ロータリークラブ認証状伝達式、ジョージ・ミーンズより小林雅一会長へ認証状

写真右 1955 年 2 月 23 日 東京・東京北・東京南ロータリークラブの共同主催で開催されたロータリー 50 周年記念祝賀会で講演する小林雅一氏

も味わったに違いない。ロータリーは生き残ったばかりでなく、成長したのだ。その存在を揺るがす3つの難関は、ロータリアンに自分たちが誰であり、何を支持しているのかを吟味させるきっかけとなった。ロータリー組織は、そのための苦難や戦いに甘んじ、命すら捨てる価値のあるものか？ ポールは——そして他の多くの勇敢なロータリアンも——「その通りである」と揺がぬ確信を持ってこの世を去っていった。

と書かれています。

### ジョージ・ミーンズが来日

1945年に第2次世界大戦が終わった後の、各国の復帰については、『ロータリー日本五十年史』に見ることができます。

1945年3月グアムのロータリークラブが国際ロータリーへ復帰したのが被占領地で復活した最初で、同じ年にフランス、ベルギー、オランダ、ノルウェー、フィリピンにある66クラブが復活し、1946年にはシンガポール、上海、香港、ラングーン、アテネ、およびチェコスロバキアの6クラブが復活した。

枢軸国から最初に帰ってきたのはイタリアのクラブで、ルクセンブルク、マラヤ連邦、ギリシャ、ビルマ、シャム、蘭領インドおよびトリエステなどの被占領国からも続々とクラブが復帰してきた。

日本の状況について同書では、

日本においても戦争が終わると直ぐ国際ロータリーへ復帰の希望がわき起り、東京、大阪、京都、神戸などの各曜会はボツボツ連絡をとり始め、名簿の交換、出席率の知らせ合いなどをやり始めた。

大阪 66.33%、京都 62.55%、札幌 62.16%、小樽 64.8%、旭川 61.5%、東京 58.6%、盛岡 54.67%、名古屋 42.7%、神戸 36%、門司 22.25%という記録が残っている。

と当時の人々の国際ロータリー復帰への思いが書かれて

います。その経過については、

ダグラス・マッカーサー元帥 Douglas MacArthur の副官バンカー大佐 Bunker からの情報にあった吉報が同年9月1日にやってきた。

国際ロータリー中央アジア駐在員としてインドのボンベイにいたジョージ・ミーンズ George R. Means が帰米の道を日本へ立寄り東京のロータリー復帰協議会を訪れ、小松 隆会長の案内で東京水曜クラブの例会に出席し、翌9月2日には小松 隆に伴われて神戸へ着き、鈴木岩蔵会長に迎えられて神戸木曜会の例会へ出席、さらに翌9月3日には大丸百貨店に大阪金曜会を訪れて里見純吉会長と懇談し、午後は京都のホテルラクヨーで京都水曜会の絹川 清と会い、その夜東京へ引き返し9月7日空路アメリカへ帰っていった。

ミーンズは国際ロータリーの命をうけて日本のもとのロータリークラブの現状を見るために来たのであって、その復帰には努力するが、それまではロータリーという名称や歯車の記章の使用などは慎むよう注意した。

と述べられていますが、このようにして、1949年3月23日、東京仮ロータリークラブができ、小林雅一氏が会長となり、3月29日に旧登録番号855で再登録され、日本のロータリークラブが国際ロータリーに復帰しました。その後、京都4月5日、大阪、名古屋、神戸は4月13日、福岡4月22日、札幌5月2日と、まず7クラブが、続けてロータリーへの復帰を果たすこととなります。続いて、横浜、今治、高知、広島、西宮、徳島、岡山、函館、小樽、熊本、新潟、四日市、岐阜の13クラブが1949年のうちに復帰しました。

うれしいニュースは続きました。同年11月、戦後新設クラブの第一陣として、一宮ロータリークラブが、次いで小倉ロータリークラブが誕生したのです。

### 新たな発展の始まり

ただ、非常に残念なことに、日本のロータリーの創始者、米山梅吉は1946年4月28日、福島喜三次は同年9月17日、日本のロータリーの復帰を見ることなく相次いで亡くなっていました。当時の、日本のすべてのロー

タリアンが、この二人にこの明るい出来事を見てもらいたかったと思っていたに違いありません。

ところで、復帰したクラブは、チャーターナイト（認証状伝達式）を催すかどうかで悩んだようです。この辺りのことについて、『ロータリー日本五十年史』には、

これらは一般に復帰といわれているが、国際ロータリーでは再建として新クラブと同じくチャーターを発行している。

復帰クラブがチャーターナイトを催すかどうかはいろいろ意見もあったが、東京クラブは4月27日工業倶楽部でのその例会で伝達式を行ない、ミーンズから会長小林雅一にチャーターが渡された。ここへは首相吉田茂も出て祝辞を述べ、G. H. Q. 総司令官マッカーサー元帥のステートメントもあったが、それには戦後日本で国際団体へ加入が許されたのは宗教関係を除けばロータリーが最初であるといい、さらに東京ロータリークラブの名誉会員を受諾することを光栄とすると書かれていた。

京都クラブは5月3日ホテルラクヨーで、大阪クラブは5月27日大丸で、また神戸クラブは6月2日オリエンタルホテルでいずれもチャーターナイトらしく華やかに晩餐会が催された。

と記されています。そして、1949年7月1日、日本に地区が復活します。

第60地区は1949年7月1日から発足したが、7月19日、20日の両日東京の工業倶楽部ではじめての地区協議会が開かれ、手島ガバナーから国際協議会および国際大会に関する報告があり、国際ロータリーの方針が示され、特にロータリー情報とロータリー財団の重要性が強調された。

と『ロータリー日本五十年史』にあります。同書によれば、戦後初めての地区大会は、

戦災を被らなかったということで、京都が第60地区になって最初の地区年次大会の開催地とときだったが、戦前日本にはじめて地区ができた時の第1回大会も京都

であったことが思い出される。

そして日本のロータリークラブが復活した年度の国際ロータリー会長としてそれに署名したアンガス・ミッチェルがこの大会に国際ロータリー会長代理として派遣されて来た。

第60地区第1回の地区年次大会は1950年京都で開催され、その前夜懇談会は京都銀行集会所で、4月8日の大会第1日は同志社大学栄光館が会場となった。桜が例年より1週間も早く咲いて文字どおりの「花の大会」となり、参加者は30クラブから681名と記録されている。

と、その華やかな様子がうかがえます。その後、日本の発展とあいまって、日本のロータリーも飛躍的な発展を遂げてきたということは、皆さまご存じの通りです。

#### 引用文献

ロータリー日本50年史編集委員会『ロータリー日本五十年史』1971年

デイビッド C. フォワード 菅野多利雄日本語訳監修『奉仕の1世紀 国際ロータリー物語』2004年

#### ポール・ハリス語録

ある晩、私は同業の友人に誘われて、郊外の彼の家を訪れました。夕食後、近所を散歩していると、友人は、店の前を通るごとに、店の主人と名を呼んで挨拶するのです。これを見て私は、ニューイングランドの私の村を思い出しました。そのとき浮かんだ考えは、どうにかしてこの大きなシカゴで、さまざまな職業から1人ずつ、政治や宗教に関係なく、お互いの意見を広く許しあえるような人を選び出して、親睦をはぐくめないものだろうか、ということでした。こういう親睦は、互いに助け合うことにつながります。

ロータリーへの私の道





ロータリー 100 周年

奉仕の 1 世紀  
実りの新世紀

連載 第 8 回

## ロータリー米山記念奨学会のはじまり

日本のロータリアンが海外からの留学生を支援

現在、日本のロータリアンは、個人で、クラブで、地区で、そして国際ロータリーやロータリー財団のプログラムを通じて、さまざまな活動をしています。そんな中であって、日本のロータリー独自の活動としては、「ロータリー米山奨学金」を第一に挙げることができるでしょう。この奨学金の名前は、もちろん日本のロータリーの創始者である米山梅吉氏に由来するものです。

第 2 次世界対戦中に国際ロータリーから脱退した日本のロータリーは、1949 年に復帰しましたが、残念ながら、米山梅吉氏は、それを待たずに、この世を去りました。

米山奨学金の制度はどのようにして生まれたかは、『東京ロータリークラブ 50 年のあゆみ』に見ることができます。

1952～53 年度の会長は古沢文作、就任早々、会員はその誕生日の週間の例会に、夫人を同伴しようと、フェミニストぶりを発揮しての提案で、会員をびっくりさせたり、又、1953 年 3 月 15 日の例会では、例会時間の

15 分延長を即決する離れ業を演じたものである。前者は実行されず、後者も永続させずに終わったが、彼が残した業績の中で、米山基金の設定は燦として輝いている。

これは、米山梅吉が、生前、東南アジアに深い関心を持っていたことから、ロータリー財団の奨学制度に模して、年 2 名の奨学生を、アジア諸国から招致しようとする計画であった。米山奨学制度は、1952 年 12 月 3 日に、成案が可決され、翌年の 2 月 25 日に、募金計画が決定し、目標を 260 万円において、会員及び会員関係事業所から、2 年継続の據金が募られた。面白いことに、その寄付第一号は、アメリカ人から寄せられた。当時、わが例会の“常連”で、バージニア州のロータリアン、ウイリー・ネルソンが、3 月 15 日の例会で寄付してくれたものである。国際奨学事業の発足には、まことに相応しい情景であった。

もうおわかりのことと思います。米山奨学金は、最初、東京ロータリークラブ（RC）のプログラムとして始まったのです。当時は、米山基金という名称で呼ばれて

いました。現在、日本が誇るべき、この米山奨学金の第1号の寄付者が日本人ではなく、アメリカ人であったことは、あまり知られていないでしょう。

現在では、海外から日本に留学している学生の中から、奨学生を選んでいます。最初は、現地で留学生を選考し、その後、学生が勉学のために来日しました。この米山奨学生の第一号、いろいろなところで紹介されていますので、ご存じの方も多いと思いますが、タイのソムチャード・ラタナチャタ氏です。

『ロータリー米山記念奨学会史』には、

バンコクのロータリーでは国際奉仕委員長ギールミデン氏 (N. Geelmyden)、ついでプレムプラチャトラ殿下 (Prince Prempurachatra) が中心になって、米山基金による対日留学生の選考が慎重に進められた。

その結果、バンコク近郊バンケンのカセツアルト農業大学を卒業したソムチャード・ラタナチャタ君が最終的に選ばれて推薦されたのであった。当時25歳のソムチャード君は養蚕学、果実の栽培と保存を日本で勉強したいと伝えてきた。

それは歓迎すべき第1号の留学生ではあったが、委員たちの苦勞も始まった。日本の大学への入学手続き、渡航、入国の世話など、クリアしなければならない難事がたくさんあった。たとえば、旅費の外貨払いにしても、当時は大蔵大臣 (佐藤栄作) に申請し許可を求めなければならないという面倒な時代であったのである。

しかし、委員たちの東奔西走の結果、東京大学農学部および大学院に入学許可の内諾が得られた。宿舎は国際学友会からの提供を得、受け入れ態勢が整ったのである。慣れぬ仕事の連続を米山奨学委員たちは、持ち前の奉仕の情熱で乗りきったのだった。

と、最初の留学生を迎えるまでの経緯が書かれています。2人目の奨学生も海外で決定し、来日をするようになっていたのですが、実際には、少し状況が変わっています。

『東京ロータリークラブ50年のあゆみ』には、

ジョージが来日しないために、余裕が出来た米山基金を、どう活用しようかと考えている折柄、東京大学で水

産資源学を勉強していた、インド人学生、P. K. イーベンが、学資杜絶のため、学業半ばで帰国寸前にあることが判ったので、彼に、米山奨学金を支給することを即決した。同じくインド人学生で、東京水産大学に在学した、A. B. ロイも、つづいて、米山奨学生に採用した。

米山奨学事業は、もし成功すれば、これに、他のロータリークラブの参加を求め、ゆくゆくは、全国的事業に発展させたいというのが、当初からの構想であった。ソムチャードを通じて、タイのロータリアンと結び得た喜びもさることながら、二人のインド人学生を“現地採用”することによって、新しい奨学制度が生まれ、それによって、より計画的に、米山奨学事業を推進出来る見通しがついたのである。

これならば成功するとの自信を得たので、他クラブへの呼びかけが始められた。その結果、当時第60及び62地区では、この東京クラブの奨学事業を継承するために、1956年地区大会に於て、その支持を決議した。即ち、地区内ロータリークラブは、会員一人当たり、年600円の寄付を決定したのである。

翌年、米山奨学会が設立され、初代委員長には、常に蔭にありながら、この事業の真の推進者であった、小林雅一が就任した。この米山奨学会は、関西以西のロータリークラブが、ぞくぞくと参加するに到って、名実共に、日本のロータリーの大事業となった。1967年7月には、財団法人ロータリー米山奨学会となり、今や、米山奨学生数が年100名という、一大国際奨学事業となっている。

と、その事情が載っています。このようにして、米山奨学金は、東京RCの活動から、日本全国のロータリークラブの活動へと発展をしていくこととなりました。前出の『ロータリー米山記念奨学会史』には、

東京RCの「米山基金」による奨学制度は3名の留学生への給付終了をもって終結することになった。前節で紹介したソムチャード、イーベン、ロイの諸君であった。

もともと米山基金設立当初から、この国際事業は全国のロータリークラブ全体の活動としての展開が考えられ



ていたのである。であるから、「米山基金の終結」とはいつたが、3名の留学生への援助を成し遂げたという実績をもって、新たな展開が模索される時期が到来したといひ直すほうがよいだろう。

と書かれています。さらに、

1957（昭和32）年9月、新組織のための試案が穂積重威によって24条にまとめられた。それに対して、9月18日に招集された第60地区および第62地区内の各クラブ会長による熱心な審議が行われ、新組織が決定された。

新組織は名称を「ロータリー米山奨学委員会」とした。そして同委員会は将来、財団法人に組織されることを前提として規約化されたのであった。

委員は参加クラブから、会員数50名または26名以上の端数につき、米山奨学委員を1名選出することとし、常務委員を委員の互選により、委員長ほかの役員は常務委員による互選によって選ぶことになった。

東京RCの小林雅一が初代委員長となり、初期メンバーが選出された。（中略）

そして、ロータリー米山奨学委員会規約の主要点は、次のように決定された。

#### <目的>

主旨において、あとの財団法人ロータリー米山記念奨学会と同様であるが、

(1) 外国からの招致を主体とし、在日留学生を第二義的に取り扱う

(2) ロータリークラブの推薦を必須条件とするという内容で、現行の制度とは少し違っている。しかし、実際の運営面では在日留学生のみが選考対象とされた。また奨学期間は2年と規定され、場合により延長を認めることになった。これは「米山基金」による奨学経験が生かされた結果であった。

このような規約を決定したうえで、1957年12月18日に第1回の常務委員会が開催された。この時の収支決算報告書によると、当時すでに第350、355および360区に分割されていた旧第60および62区からの寄付金合計額は153万1,200円に達し、利息収入を加え

ると収入総額は154万3,215円になった。

と、現在の「ロータリー米山記念奨学会」ができるまでの経緯について触れています。

記念すべき最初の奨学生は、アブ・シード・ムハメッド・シヤヒード（パキスタン〈現、バングラデシュ〉／東京工業大学繊維工学科）、ニュエン・ダイカ（ベトナム／京都大学物理学科）、ヘルマン・スカルマン（インドネシア／東京医科歯科大学）、ホセ S. コンセプション（フィリピン／東京工業大学理工科）、陳普章（香港／九州大学薬学科）、ササン・ジャバン（イラン／東京大学電気工学科）、S. S. ジャヤシンハ（セイロン〈現、スリランカ〉／東京大学農業工学科）、スポット・テシャワロー（タイ／早稲田大学商学部）です。

東京RCが初めて米山奨学生を誕生させてから50年の歳月がたちましたが、今では、日本でなくてはならない奨学事業として成長しました。ロータリー米山記念奨学会では、その折々の社会的背景やさまざまな事情を反映し、その制度を変更してきました。新しい時代にふさわしい奨学事業にすべく、さまざまな視点からの見直しが進められています。新しい制度は2006年にスタートします。

#### 引用文献

東京ロータリークラブ創立50周年記念事業委員会『東京ロータリークラブ50年のあゆみ』1970年

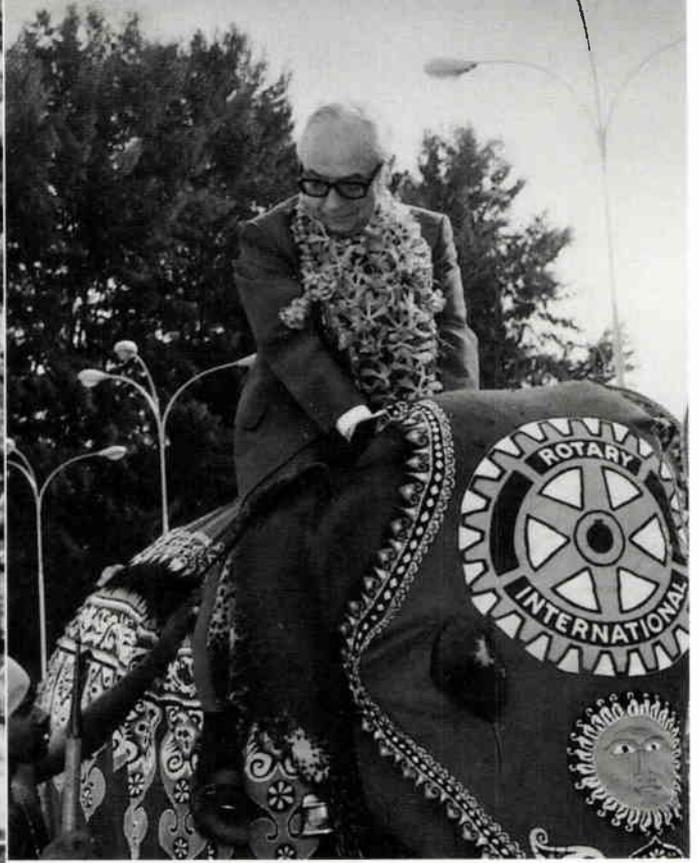
ロータリー米山記念奨学会史委員会編『ロータリー米山記念奨学会史1967～1992』1992年

#### ポール・ハリス語録

個人と国家の公正に害をなすものと闘うために神から人類の手に置かれた最も強力な武器が、教育です。

アメリカ・ミズーリ州カンザスシティで開かれた1918年R I 国際大会でのメッセージ





ロータリー 100 周年

奉仕の 1 世紀  
実りの新世紀

連載 第 9 回

## 日本から出た 二人の国際ロータリー会長

ポール・ハリス、アーチ・クランプ……歴代 R I 会長とともに

### 忘れられない R I 会長たち

ロータリーの 100 年の歴史を語るとき、国際ロータリー (R I) 会長についての話を忘れてはいけません。初代会長は、1910 - 11 年度のポール P. ハリス。彼は、引き続き 1911 - 12 年度にも会長を務めています。ポール P. ハリスは、皆さまよくご存じのロータリーの創始者です。

『奉仕の一世紀 ロータリー物語』(P 296) には、1910 年から 1913 年までは、新しい会長の年度が国際大会とともに始まったとあります。同書によれば、1910 年の国際大会は 8 月 15 ~ 17 日とありますので、ポール・ハリスの会長年度は、今よりも少し遅く始まったこととなります。

余談ですが、この年の国際大会はシカゴで開催され、登録者数 60 人と記録されています。

さて、賢明な読者の皆さまは、前出の文章で「初代 R I 会長」ではなく、「初代会長」となっていることにお気づきでしょう。実は、1910 年は初めてロータリー大会が開催された年で、この大会で「全米ロータリー・クラブ連合会」が新設され、その会長にポール・ハリスが選ばれたのです。従って、このとき彼は、全米ロータリークラブ連合会会長ということになります。ちなみに、この年度に初めて国境を越え、カナダにロータリーができました。

ロータリーの名称は、1912 - 13 年度に「国際ロータリー・クラブ連合会」に、そして、1921 - 22 年度「国際ロータリー」という現在の名称に変更されました。

歴代の R I 会長の中には、ポール・ハリスのほかにも、今でもよく名前を聞く人が何人もいます。ロータリー財団の生みの親といわれるアーチ・クランプ。1923 年の関東大震災のときに、R I から多大の救援が届きました

写真左 レークブラシッドでハッピーを着た東ヶ崎深氏

写真右 1982 年 11 月、スリランカ・コロンボで開催の R I 会長主催南アジア親善会議開会式の一環。象に乗りパレードの先頭をゆく向笠廣次氏

が、そのときの会長で『ロータリー通解』の筆者ガイ・ガンディカー。「四つのテスト」の草案者ハーバート・テラー。『ロータリーモザイク』の筆者ハロルド・トーマス。

R I 会長の名前を挙げれば、次々と浮かんできますが、その中でも、日本のロータリアンにとって忘れることができないのが、日本から出た二人の R I 会長、東ヶ崎とうがさき潔きよし氏と向笠むかさひろし廣次氏でしょう。

## 世界市民 東ヶ崎潔 R I 会長

東ヶ崎潔氏は、1968 - 69 年度 R I 会長で、東京ロータリークラブ (RC) の会員でした。ガバナーになったのが 1957 - 58 年度です。R I 会長するとき、「PARTICIPATE ! (参加し敢行しよう! )」というテーマを掲げていますが、このテーマは、英語で言えば、1 語、歴代で最も短いテーマになります。東ヶ崎氏は、1895 年 9 月 24 日にアメリカで生まれています。R I 会長に就任した 1968 年 7 月号の『ロータリーの友』には、「世界市民 東ヶ崎潔」というタイトルで『THE ROTARIAN』からの転載記事が掲載されています (本誌 2002 年 8 月号横組み P 25 ~ 27 に再掲載) が、

新 R I 会長は 1933 年以降日本に住んでいるが、生まれた地である米国とは深い絆で結ばれている。(中略) ジョージ・キヨシ・トガサキというその名前も、二つの文化の影響を表わしているものといえよう。

という書き出しで始まっています。この記事には、詳細に東ヶ崎氏のことが紹介されていますが、以下にその一部を抜粋して紹介します。

大不況が深刻化した 1932 年に、ジョージは米国での生活を引払い、将来移民法が改正されて家族とともに渡米できる日の来ることを期して、東京に移住した。日本では、豊かな英語力と米国とのコネクションを見込まれ、世界教育者会議日本事務局長、1939 年のニューヨーク万国博覧会コミッショナーなどを務めて国際理解の増進に貢献した。

1941 年に始まった太平洋戦争は、ジョージに深いジレンマを感じさせたが、日本の当局は彼の誠実さを信じて、ジャパン・タイムズの編集局長として働くことを認めていた。この微妙な時期に彼は日米両国についての豊富な知識をもって、数多くの好ましからざる誤解と溝の生じるのを防ぐよう努めている。

## 水曜会に入会

その後ジャパン・タイムズの社長に就任したが、このころ元ロータリアンであった人々がつくっている水曜会に入会するよう勧誘された。日本には 1920 年にロータリークラブが生まれていたが、軍部より外国との結びつきを警戒され、1941 年に解散を命じられていた。しかし会員たちは、ロータリーの気高い目的と主義を保つていこうとして、毎週水曜日に例会を開いていたのである。嚴重な食糧配給下にあった当時の水曜会の会員たちは、毎週の例会日にはそれぞれ弁当を持ち寄って会合していたと、ジョージは回顧している。

R I 理事会が日本のロータリーを R I に復帰させることを決議した当時の R I 会長は、S . ケンドリック・ガンジィ (1947 - 48 年度) である。その翌年の R I 会長アンガス・ミッチェルは理事会と諮って、ロータリー復帰の可能性を調査させるために、時の R I 事務局次長ジョージ R . ミーンズを日本に派遣した。この結果、戦後の日本における初めての国際奉仕団体として東京ロータリークラブが復活したが、ジョージもこのときのメンバーにその名を連ねている。

ジョージは 1955 - 56 年度、東京ロータリークラブ会長に選出された。その翌年オランダで開かれた国際クリスチャン指導者会議に出席の途次、サンフランシスコに向かう船上で、フィラデルフィア国際ロータリー大会で講演をしてくれるようにとの依頼電報を受け取った。

さらにその年はオーストラリアのシドニーで開かれた R I の太平洋地域大会で主要講演を行い、それから 2 年後ニューデリーで行われたアジア地域大会でも主要講演者として登壇している。

## 国際人 向笠廣次 R I 会長

向笠廣次氏は、大分県の中津 RC の会員です。1982

— 83年度にR I会長を務めました。彼のテーマである「MANKIND IS ONE (人類はひとつ)」、そして、1982年の国際協議会での「世界中の人々はみんないとおなじなのです」という言葉は、今でも好んで使われています。1911年11月9日生まれの子科医で、1967—68年度にガバナーを務めました。

『友』1982年7月号に掲載されている向笠氏の紹介記事のタイトルは「ムカサ ザ コスモポリタン」。ここからも彼の国際人ぶりがよくわかります。これは、松平一郎元R I理事の執筆ですが、以下に、その要旨を紹介し、本誌2002年8月号横組みP 28～30に再掲載。

#### 人種の差には関心がない

向笠君は、国際的にも名を知られた精神科のドクターである。彼が人類を考えると、国籍、肌の色、言語、宗教などによる区別には関心がない。あるのは頭脳の機能による幾つかの性格の分類だけである。

第二次世界大戦直前、世界各国で行われた精神医学の調査によると、各国における人間の気質、あるいは性格の分類がその国の人口に対する比率は、ほとんど同一であることが報じられた。向笠君もその調査に参加し、日本の場合の比率も他国と一致していることを発見した。

さらに人間の考え方の相似性について、向笠君はいう。どこの国の文学でも音楽でも、われわれは鑑賞し楽しむ。どこの国民の行為でも美談はわれわれの心を打ち、悲しいことはわれわれの涙を誘う。これは世界中の人間の考えることには差異はないという何よりの証拠であり、平和を求める心には変わりはない。

#### 1人の20代後には100万人

彼はさらに自分の家族のルーツを考えてみた。彼の長男で今すでに3人の子どもの父親となり、彼の後継者として精神科医であり、かつロータリアンでもある廣昭君が、子どものとき、父親に「僕のおじいさん、おばあさんは何人いるの?」と聞き、さらにその前は、その前はと問い続けられ、計算した結果、10代前までさかのぼると、1,024人となり、20代前には100万人、30代前には10億人という天文学的数字になることを知った。この計算は子孫についても同様で、仮にわれわ

れが2人ずつ子どもを持つとすれば、10代後に1,000人、20代後には100万人、30代後には10億人になる。坊ちゃんとの回答から得た結果は、人類は疑いもなくひとつの大きな家族であるということであった。

向笠君は、彼の前任者スタン会長の、「ロータリーを通じて、世界理解と平和を」のテーマを全幅的に支持し、それらを阻む不信と猜疑を取り除くために、ロータリーの持つあらゆるプログラムを通じ、友情の橋をかけることは必ず実現できると主張している。

いかがでしょうか。日本のロータリーから偉大な二人のR I会長が出ています。向笠廣次氏がR I会長になって20年以上が過ぎました。三人目のR I会長を望む声も次第に大きくなってきています。

#### 引用・参考文献

デイビッド C. フォワード 菅野多利雄日本語訳監修『奉仕の1世紀 国際ロータリー物語』2004年

『ロータリーの友』1968年7月、1982年7月、2002年8月の各号

向笠廣次「来るべき年度」(国際ロータリー『1982 INTERNATIONAL ASSEMBLY』(国際協議会講演集・邦訳)1982年)

#### ポール・ハリス語録

ロータリーがすべての文明国の善良で影響力ある人を結集できたのは奇蹟ではないでしょうか? すべての人々が立つことのできる十分な広さのプラットホームがある、と知ることができて愉快ではありませんか? さまざまな信念と忠誠心を有する人が健全で善良なものを互いの中に沢山見出し合えると知るのは何と心温まることでしょうか? ロータリーは分裂の要素がある数々の世界で結合する力です。

ロータリアン誌1944年6月号





ロータリー 100周年

奉仕の1世紀  
実りの新世紀

連載 第10回

## ポリオとの闘いの日々

世界中の子どもたちに幸せな明日を贈る

### フィリピンで最初のポリオワクチン接種活動

国際ロータリー（R I）の1978年4～5月の理事会は、「保健、飢餓追放および人間尊重補助金プログラム（Health, Hunger and Humanity Program）」、いわゆる3-Hプログラムを設立し、これは1979-80年度にロータリー財団に引き継がれました。このプログラムの目的は、国際間の理解、親善および平和を推進するための方法として、人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的社会的向上発展をはかることにあります。

1979年の初め、フィリピンのザビノ・サントスバストガバナー（1970-71年度）が、R Iにポリオ免疫接種事業を行ってくれるように、という手紙を出したのです。ポリオ予防ワクチンの必要性、国内外の諸機関の協力、ロータリアンおよびロータリークラブの協力などが考慮された結果、フィリピンは、3-Hプログラムによる、最初の大規模免疫接種活動をするのに適切であ

ると、認められました。

その結果、1979年9月、生後3か月から36か月の子ども約600万人に対して、5年計画のポリオ免疫接種活動が始まりました。そして、この活動が、R Iが取り組んだ最初のポリオ撲滅活動となったのです。

### R Iの本格的取り組みに先駆けた日本の活動

1981年、第258地区（現、第2580地区）の東京麴町ロータリークラブ（RC）は、「3-Hプログラム」の「インドはしか免疫プロジェクト」に参加した経験がありました。同クラブでは、クラブ設立15周年事業として1982-83年度、南インドにポリオワクチンを送り、地元のロータリアンと協力して、子どもたちをポリオから救うことを計画したのです。

この計画は、第258地区と第275地区（現、第2750地区）の賛同を得て、2つの地区の世界社会奉仕（WCS）プロジェクトへと発展しました。ロータリー財団

写真 フィリピンで実施された第1回の大規模3-Hプログラムにより、少なくとも600万人の子どもたちがポリオの恐怖から解放された

からは「すばらしい計画であり、感謝する」と評価されています。

## 「ポリオ 2005」の誕生

1982年2月のRI理事会で、「ロータリークラブおよび地区が、保健、飢餓追放および人間尊重プログラム、世界社会奉仕計画、社会奉仕活動を通じて、世界中の子どもたちに伝染病に対する免疫接種を、適切な国際的、全国的、あるいは各地の保健機関と協力のもとに継続させることを奨励し、西暦2005年に国際ロータリーの100年祭を迎えるまでに、全世界の児童をポリオから守る免疫接種を完了させることを目標とする」旨を決議しました。

これを受けて、1984-85年度、カルロス・カンセコRI会長（当時）は、この目標達成の方法をはかるポリオ2005委員会を任命、1984年11月の理事会で同委員会からのポリオに関する報告を受理、全世界的規模でのRIのポリオ撲滅活動が動き出しました。

1985年2月、ロータリー創始80周年に当たって、RIは、ポリオ・プラス計画を発表しました。プラスとは、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核の5つの病気を指します。ポリオだけではなく、これらの病気も含め予防接種も実施することとなり、ポリオ・プラス計画と改称されたのです。

## 目標を上回る募金を達成

日本国内では、募金総額40億円を最終目標として、1986年7月から、日本ポリオ・プラス委員会により、5年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まりました。各クラブや地区での積極的な取り組みのおかげで、このキャンペーンが展開されていた1986年7月から1991年6月までの5年間で、目標額をはるかに超える約49億円の寄付金を集めることができました。

RIでは、1989年6月までの3年間でキャンペーン期間としていましたが、日本では5年計画を立てました。結果的には、5年間と見込んでしっかりとスケジュールを組んでいた日本のキャンペーン活動は成功で、非常に高い実績を上げています。RIでは、1988-89年

度までの3年間で米貨2億4,700万ドルを集めました。これは目標額の2倍に相当します。

## 多くの日本人がポリオワクチンを届ける

ロータリー財団では、WHOやUNICEFと綿密に連携し、集まった尊いお金をもとに、世界各地でポリオワクチンの投与を実施しています。しかしながら、ポリオワクチンの投与は、やさしいことではありません。宗教や紛争などの要因により、思うように事が運ばない場合も多々あります。ポリオワクチンを届けようとして、紛争に巻き込まれて亡くなった例もあります。

日本のロータリーとしては、1994年に非ロータリー国である中国で、ポリオワクチン一斉投与を実施しました。また、1995年、第2650地区（福井・滋賀・京都・奈良県）はWCS（世界社会奉仕）の活動の一環として、カンボジアでワクチン一斉投与を行いました。この時はロータリー財団から30万米ドル、地区からは10万米ドルを拠出しています。

同地区では、この活動を皮切りに、幼児たちのためのワクチン一斉投与を、1996年・モンゴルで、1997年・ネパールで、1998年・ラオスで、1999年・ベトナムで、2000年・中国／ミャンマー国境で、2001年・バヌアツで、2002年・ミャンマーで、2003年・カンボジアで、2004年・ラオスで、今年2005年はパプアニューギニアでと、11年間にわたって活動を続けてきました。

その後、第2640地区、第2830地区など日本の多くの地区や、また、ロータリアンがポリオワクチン投与のために多くの国々へ出かけています。

これらの中には、ローターアクター（ローターアクトクラブ会員）が、参加した例もあります。

## 次々にポリオ撲滅宣言

最初にポリオの絶滅が宣言されたのは汎米（北・中・南米）地域。1994年のことでした。次いで、世界で2番目、2000年、WHOにより西太平洋地域での「ポリオ根絶宣言」が出されました。「西太平洋地域ポリオ根絶京都会議」——この輝かしい宣言は「京都宣言」として発表されています。



この「京都宣言」が大きく報じられたために、日本のロータリアンの中には、ポリオは終わったとの誤解が生まれているようです。京都宣言に続き、2002年、ヨーロッパ地域での撲滅宣言が出されていますが、これまで出された宣言は特定の地域での撲滅宣言であり、地球上すべての地域で、ポリオが撲滅されたわけではありません。

### ポリオ撲滅活動の最終段階

100周年を記念して、2005年6月に開催されるシカゴ国際大会で、ポリオ撲滅宣言を出すために、国際ロータリーは、2002-03年度に「約束を守ろう、ポリオをなくそう」を合言葉に、「ポリオ撲滅募金キャンペーン」(PEFC)を実施しました。目標募金額は、8,000万米ドル。これには、現金、地区財団活動資金(DDF)、そして個人やクラブの3年間の誓約を含んでいます。

このRIの挑戦に呼応して、世界中の各クラブ、各地区では、今年度、新たな活動を展開しています。日本では、2005年の6月までの3年間で目標を達成するよう活動を続けています。

ポリオの撲滅は99%達成しましたが、ロータリアンをはじめとする多くの人々の努力にもかかわらず、残念ながら、6月に開催されるシカゴ国際大会で、100%撲滅宣言を出すことはできない状況になりました。人口の多いインドでは、外部からのさらなる資金援助を必要としています。アフガニスタンにおける内戦の悪化も挙げられます。パキスタンでは政情不安を抱え、国境を接しているアフガニスタンからウイルスが流入する恐れもあります。ナイジェリアでは、北部の州でワクチン投与が妨害されたために予定が大幅に遅れ、一度ポリオの撲滅を宣言した近隣諸国にポリオウイルスが再び広がりを見せています。

RI国際ポリオ・プラス委員会委員長ウィリアム・サージェント氏は、「第2の恐ろしい病気が消滅すれば、発展途上国でほかの公衆保健事業に何億ドルもの投資ができます。発祥場所を正確に把握し、さまざまな病気群の存在を特定するために利用される研究所間のネットワークは、世界中で受け継がれています。また、世界は、歴

史上最大規模の公衆衛生運動から貴重な教訓を得ることでしょう」と、『THE ROTARIAN』の編集者の「長い目で見たとき、ポリオ撲滅がもつ意味はどのようなものでしょうか」という質問に答えて述べています。

『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』によれば、経口ポリオ・ワクチンの生みの親である故アルバート・セーピン博士はかつてロータリアンに、「1985年にポリオ・プラスを開始していなければ、ロータリー創立100周年の2005年にはポリオ患者が800万人に増加しており、おそらくその期間中に80万人がポリオで死亡していたことでしょう」と語っています。

ロータリアンが取り組んだポリオ撲滅活動によって、ポリオの発症例は大幅に減少しました。でも、ロータリーが掲げた目標が達成されたわけではありません。100%ポリオが撲滅したという宣言を出すその日まで、ロータリアンとポリオの闘いが終わることはありません。

「約束を守ろう、ポリオをなくそう」

\*本稿は、2003年5月号横組みP30～33「ロータリーポリオとの闘いの日々」をもとにその後の状況を加筆したものです。

#### 引用・参考文献

デイビッドC.フォワード 菅野多利雄日本語訳監修『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』2004年

『ロータリーの友』2004年8月、2005年4月の各号

### ポール・ハリス語録

私たちがロータリーと呼ぶものは、魅力を持って生き続けることができるのでしょうか？  
あるいは自然の摂理のように、生まれ、成長し、繁栄し、次いで、病み、年を取り、衰え、身体不随となり、ついには死んでいくのでしょうか？



ロータリアン誌 1926年8月号



ロータリー 100 周年  
奉仕の 1 世紀  
実りの新世紀  
連載 第 11 回

## ロータリーの新しい風

ロータリーに女性が入会……

### ロータリアンの配偶者として

ロータリーは、ポール・ハリスと 3 人の友人、すなわち 4 人の男性で始められました。この組織に女性会員が加わるのはずっと後のことですが、創立当初は誰ひとり女性会員の存在を考えなかったに違いありません。当時は、アメリカにおいても、女性の社会進出がそれほど進んでいたわけではありませんから。

しかし、ロータリアンの夫人として、女性が果たしてきた役割は大きいものでした。1905 年の創立当時、独身だったポール・ハリスは、1910 年に結婚します。それ以降、その夫人ジーン・トンプソン・ハリスの存在は、ロータリアンの夫人たちの中でも特に大きいものとなりました。彼女は、ロータリアンとその夫人たちに自宅を開放し、お互いに打ち解けるようにしました。そして、夫人たちの中で生まれた連帯感と奉仕の精神によって、夫人たちも一緒に奉仕をするようになっていきました。

また、ジーン夫人は、ロータリアンの夫人たちに「ご

主人のロータリーの活動を奨励してください。ご主人方は、例会から帰宅される度に、よりすばらしい男性に成長しているはずですよ。ロータリーには、会員が向上しようとする高い理想があるのです」と話していました。

### 女性ロータリアン 賛成？ 反対？

女性が配偶者としてだけでなく、ロータリーに入会ができるよという話は度々議論されました。しかし、その実現には予期せぬ出来事が起こったのです。

『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』によると、

1978 年にカリフォルニア州デューアルテ・ロータリー・クラブは、定款に真っ向から違反して、3 名の女性を会員として受け入れた。国際ロータリーは同クラブの認証を取り消し、これがクラブと 3 名の女性による訴訟事件に発展した。訴訟はカリフォルニア州と他の 39 州で市民的権利に関する法律に盛り込まれたウンルーの判例を拠り所としていた。簡単に言えば、事業体が性別、人種、

写真 1995 年国際協議会で「クラス写真」のためにポーズをとる、1995 - 96 年度ハーバート・ブラウン R I 会長エレクトと、1995 - 96 年度に彼のリーダーシップ・チームで任務に就いた、初の女性ガバナーのグループ。

皮膚の色、宗教、出身国などを基に差別したりサービス提供を拒否したりできないようにするものである。原告側は事業体を「一般に大衆に開かれたもの」と広範に定義した1件の判例を基に、ロータリー・クラブは事業体と同じ分類に属すると主張した。

デュアルテ事件に先立ち、他の多くのロータリー・クラブはロータリーの議会である規定審議会に女性の入会を許可するよう定款改正を求める立法案を送っていた。規定審議会は3年に1度開かれ、世界から各地区一人の議決権を持つ代表委員が集まる名実ともに民主的な議会であり、これらの代表委員はクラブから選出された人物である。1970年代と1980年代に開かれた各規定審議会では、女性入会のための改正を可決する方向に次第に票が集まるようになった。

1980年にジェームスL. ボーマー会長の下でR I理事会が改正案を支持したが、僅差で否決に終わった。「シンガポールで開催される1989年規定審議会では、女性の入会を認める決議案が通過することを疑わない」と著名な弁護士でペンシルベニア州法曹会元会長のチャールズC. ケラー元R I会長は述べた。

しかし、この決定はロータリーの手を離れた。

裁判の勝放はピンポン玉のように一方が勝ったと思えば他方が勝ち、そのたびに敗訴側が上訴した。女性クラブを含む他の奉仕団体は、ロータリーの立場を支持する法定助言者として趣意書を提出した。

1987年5月4日、7対0で米国最高裁判所は国際ロータリーに不利な判決を下した。裁判所は、ロータリー・クラブは公共施設法的審査の規定に則して事業目的があるという点でデュアルテ側に同意し、米国内で国際ロータリーは女性を入会させたという理由だけでクラブの認証を取り消すことはできないという判決を下した。R I理事会は男女の平等な処遇が法律で明らかに義務付けられている国では、会員を男性に限定する規定を執行しないという措置をとった。1989年の規定審議会ではR Iの定款文書から「男性」という言葉を削除する制定案を提示し、これが採択された。

最高裁の判決は世界各地で大見出しで報道された。ロータリーもこれで終わりという予測が口にされたにも

かわらず、ロータリーは前進し続けた。一部のクラブには今でも女性会員が一人もいない。一方、台湾やアルゼンチンのような国には、会員が全員女性のロータリー・クラブもある。北米では女性がすみやかにクラブに同化し、他の国もそれに続いた。反対派の言い掛かりとは裏腹に、入会した女性は、既婚男性を盗む妖婦ではなく、銀行家、店主、コンピュータ企業の上級管理職、校長、弁護士等であった。彼女らは熱心に活動し、ロータリーの財政と親睦の両面に大きく貢献した。そのうちに、女性のクラブ会長や地区ガバナーが誕生し、以前人種や民族的背景の異なる会員がロータリーに一つに溶け込んでいったように、今日の女性会員はただ「ロータリアン」と呼ばれている。

と、その経過が書かれています。ちょうどこのころ、女性会員の賛否に関する記事が『THE ROTARIAN』や『ロータリーの友』誌上にぎわせました。

## 1989年正式に入会が認められた

そして、1989年、シンガポールで開催された規定審議会でも、女性会員の入会が審議され、その結果、正式に女性の入会が認められるようになりました。この結果を踏まえ、日本にもすぐに女性会員が誕生しました。第250地区（現在の第2500地区）・北海道清水（現在の清水）RCの松田郁子氏です。

その後、女性会員は確実に増え続け、今や世界で約14万人の女性会員がいます。その割合は、会員の12%を超えるまでに至りました。日本では、女性会員の比率は約3%と、全世界の平均から見るとまだ少ないのですが、確実に増えてきています。

現在では、女性会員がクラブ会長を務めるクラブも増えました。地区委員やガバナーに就任する女性もたくさんいます。2005 - 06年度は、隣の韓国に初めて女性のガバナーが誕生します。また、1996 - 97年度ルイス・ジアイ国際ロータリー会長の夫人、セリア・ジアイ氏がガバナーに就任します。また、パストガバナーの夫人がガバナーになるという例もあります。



カール・ヴィルヘルム・ステンハマー国際ロータリー(RI)会長エレクトは、2005年2月に開催された国際協議会の講演で、

2005 - 06年度は、女性会員が適切に扱われる年度にしましょう。私たちはしばしば、この組織は120万人の会員から構成されていて、そのうち女性会員は14万4,000人であるという言い方をします。なぜこのような言い方をするのでしょうか。当組織について適切に話すのであれば、「当組織は120万人のロータリアンから構成されている」だけで十分です。

と述べ、男性、女性の区別をすることのないよう呼びかけました。さらに、新年度にはロータリー財団管理委員に初めて女性が就任すること、RIのその他の主要ポストに女性を起用したことを発表し、

これらの女性たちが任命を受けたのは、女性だからではなく、その才能に基づくものであるということを心によく刻んでくださるようお願いいたします。ロータリアンの男女比からすると、適切な比率ではない女性が、私の年度に任命されることを私は認めます。しかし、こうすることによって、女性ロータリアンおよびまだロータリアンでない女性に対し、私はメッセージを送ろうとしているのです。すなわち、私たちの組織ではあなた方女性も指導的役職に就くのだ、ということです。さらに、事業にかかわるものとして、私は、この行為を長期的利益をもたらす短期的投資である、と考えます。

と、付け加えました。そして、そこに参加していたガバナーエレクトに対しては、

まだロータリアンとなっていない女性指導者を探し、入会を勧めることができます。女性会員をクラブ会長として擁立するよう地区のロータリアンに奨励することもできます。また、クラブ会長を経験した女性をみなさんのようなガバナーとして擁立するようロータリアンに奨励し、パストガバナーである女性がRI理事となるよう

取り計らうことができます。一度これが実現すれば、初の女性のRI会長誕生への扉が開かれるのです。その日がくるならば、ロータリーの歴史上、なんと輝かしい日となることでしょう。

と語っています。これはガバナーエレクトだけでなく、ロータリアン全員へのメッセージであつたでしょう。

ロータリー100周年を記念して、ロータリーの誕生から、さまざまな視点で最初の1世紀を振り返ってきました。今、100周年の年度が終わりを告げ、奉仕の第2世紀が始まろうとしています。ロータリーの新しい世紀に、歴史を書き加えるのは、今ロータリアンである皆さま一人ひとりです。100年後、そのときのロータリアンは、皆さまの活動とその成果をどのように書きつづるのでしょくか。

#### 引用・参考文献

デイビッドC.フォワード 菅野多利雄日本語訳監修『奉仕の1世紀 国際ロータリー物語』2004年  
『ロータリーの友』2004年5月号など

#### ポール・ハリス語録

今から100年後にロータリーはどうなっているでしょうか？  
生きている人には想像もつきません。現在のロータリーにとって不可能なことはありません。

私はロータリーが生き続けると信じています。生きているなら、発展するでしょう。

いつか現在の会員資格によって課せられる責務を遂行できなくなる時が来ます(私たちは、冷酷な掟に従い、年老いていくに違いありません)。そのとき私たちはどうするでしょうか？ 退会しますか？ 多分退会しないでしょく。もし退会しなければ、大いなるロータリーの夜明けが多分そのとき来るでしょう。

ロータリアン誌、1915年2月号

